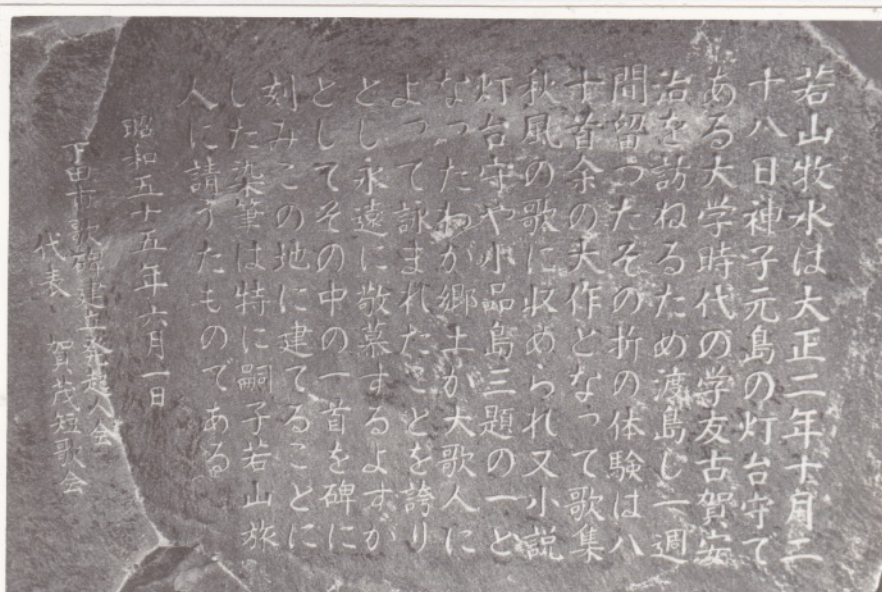




↓「エリカの咲く岬」詩碑



龍山

会人
会海

ファイル 76

若山牧水(岐阜県~鹿児島県)

和田 傳

渡辺 喜恵子

渡辺水巴・桂子・恭子

蕨 樞 堂・眞

われは湖の子

若山牧水歌碑

所在地 岐阜県中津川市駒場大岩 「長多喜旅館」庭内

恵那ぐもり寒けき

あそを網はりて

待てば囀のそやか

音になく 牧水

碑陰

若山牧水大正十年十月

二十七日夜鳥の小鳥網に遊ぶ

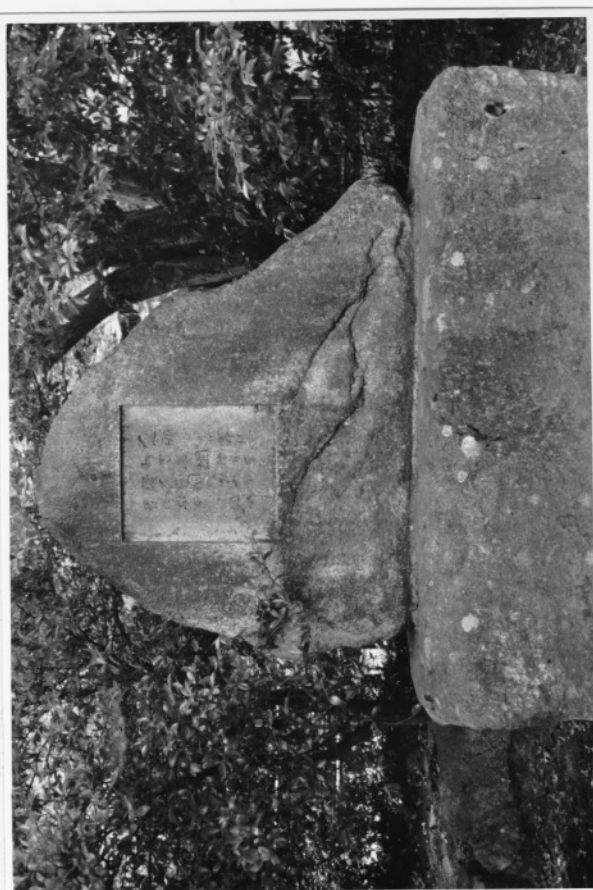
牧水全集所載の恵那曇

四首は当時の作である同志

等相計りこのゆかりの地に

その一首を刻み碑を建てる

昭和十五年十月 長多喜主人



若山牧水歌碑

所在地 岐阜県中津川市駒場大岩 「長多喜旅館」庭内

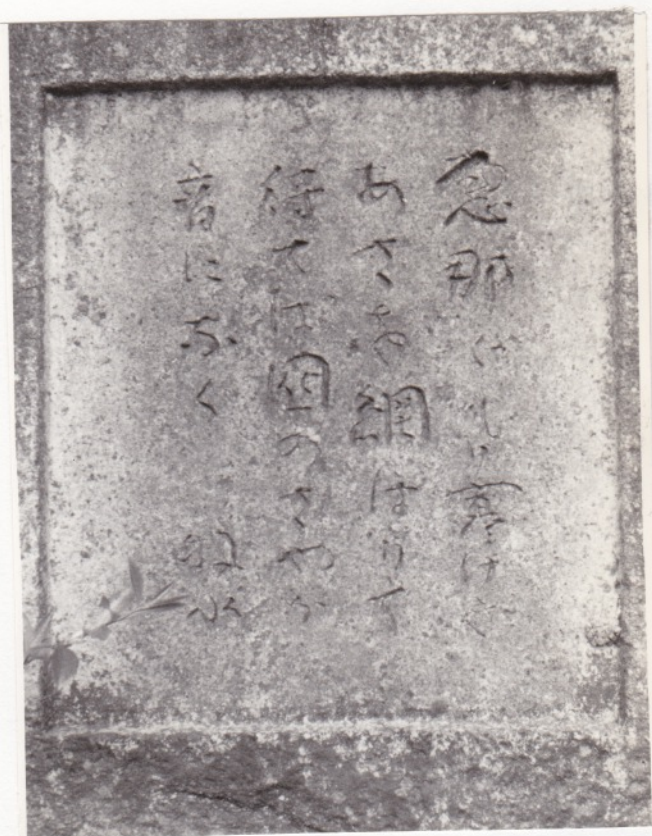
恵那ぐもり寒けき
あさを網はりて
待てば囀のさやか
音になく 牧水

碑陰

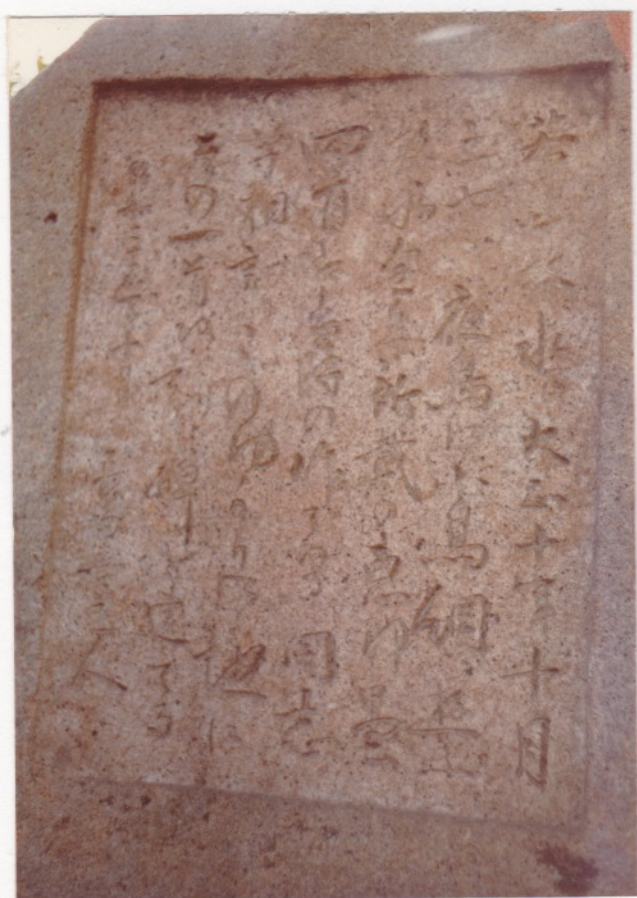
若山牧水 大正十年十月
二十七日 夜鳥の小鳥網に遊ぶ
牧水全集所載の恵那曇
四首は当時の作である同志
等相計りこのゆかりの地に
その一首を刻み碑を建てる
昭和二十五年十月 長多喜主人



長多喜主人
旅館である
← 牧水歌碑



曼那嘉の墓所 東山本寺



若山牧水歌碑

所在地 岐阜県吉城郡古川町壱之町 大銀杏樹の下

ゆきくれて 牧水
ひと夜を宿る
ひたのくのにの
古川の町に
時雨ふるなり

碑陰

歌人若山牧水は大正十年十月白骨温泉より平湯峠を越えて飛騨に入り二十日福田夕咲と共に野口の築に遊びその夜当町一之町料亭杵寅で地元の歌人らと酒を酌みかわす牧水夕咲は早稲田大学同期生の詩友酒友であった 幾山河越えざり行かば寂しさのはてなむ國ぞ今日も旅ゆく 旅の歌人 自然詩人の牧水（二八至二九）は歌集別離を二十五歳で上梓四十三歳沼津に永眠したが古川の時雨と鮎六首を詠んだのは三十六歳であった

荒垣秀雄撰並書

昭和四十九年五月建之

古川町観光協會



若山牧水歌碑

所在地 岐阜県飛騨市古川町壺之町 大銀杏樹の下

牧水

ゆきくれて
ひと夜を宿る
ひたのくにの
古川の町に
時雨ふるなり



碑陰

歌人若山牧水は大正十年十月白骨温泉より平湯峠を越えて飛騨に入り二十日福田夕咲と共に野口の築に遊びその夜当町一之町料亭杵寅で地元の歌人らと酒を酌みかわす牧水夕咲は早稲田大学同期生の詩友酒友であった 幾山河越えさり行かば寂しさのはてなむ國ぞ今日も旅ゆく 旅の歌人 自然詩人の牧水(一八八五-一九二八)は歌集別離を二十五歳で上梓四十三歳沼津に永眠したが古川の時雨と鮎六首を詠んだのは三十六歳であった

荒垣秀雄撰並書

昭和四十九年五月建之

古川町観光協會





若山牧水歌碑

所在地 岐阜県大野郡丹生川村久手五五 平湯峠上

のぼり来て

碑陰

平湯峠ゆ 見はるかす

昭和三年九月

飛騨短歌会建之

ひだの平に

大崎光雄刻

雲こもりたり

牧水



若山牧水歌碑

所在地 岐阜県高山市丹生川町久手 505 平湯峠上

のぼり来て

平湯峠ゆ見はるかす

ひだの平に

雲こぼりたり

牧水

碑陰

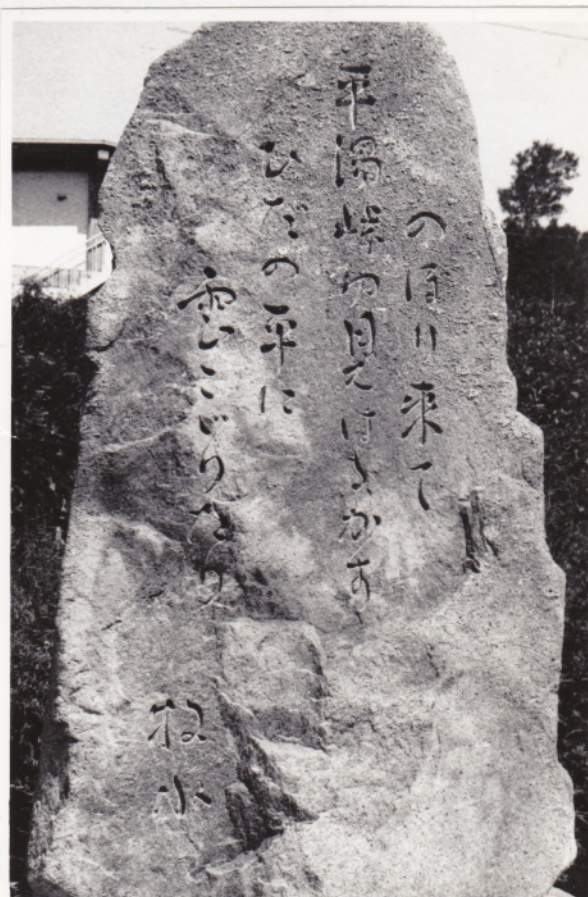
昭和三十八年九月

飛騨短歌会建之

大崎光雄刻



日武平八十三郎
文藝会雑誌掲載



若山牧水歌碑

所在地 愛知県名古屋市熱田区白鳥町一二三 宮中学校 玄関前

牧水

咲かむと

碑陰

昭和十二年十二月建之

名古屋創作支社

並 社友

有志

つす紅に

すなり

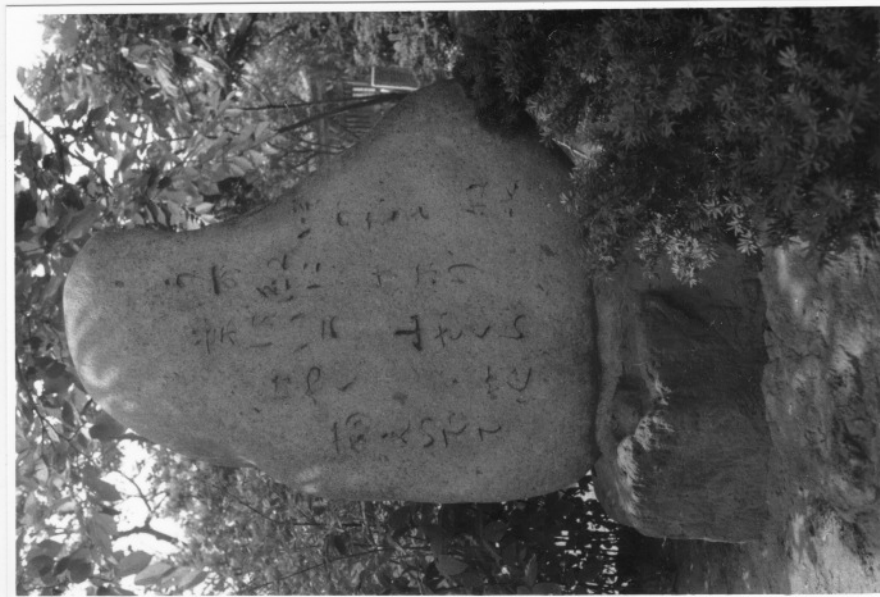
葉はいち

山ぞくら

はやく

花

萌えりて



若山牧水歌碑

所在地 愛知県名古屋市熱田区白鳥町 1-3-46 宮中学校 玄関前

牧水

咲かむと

うす紅に すなり

葉はいち 山ざくら

はやく 花

萌えいでて

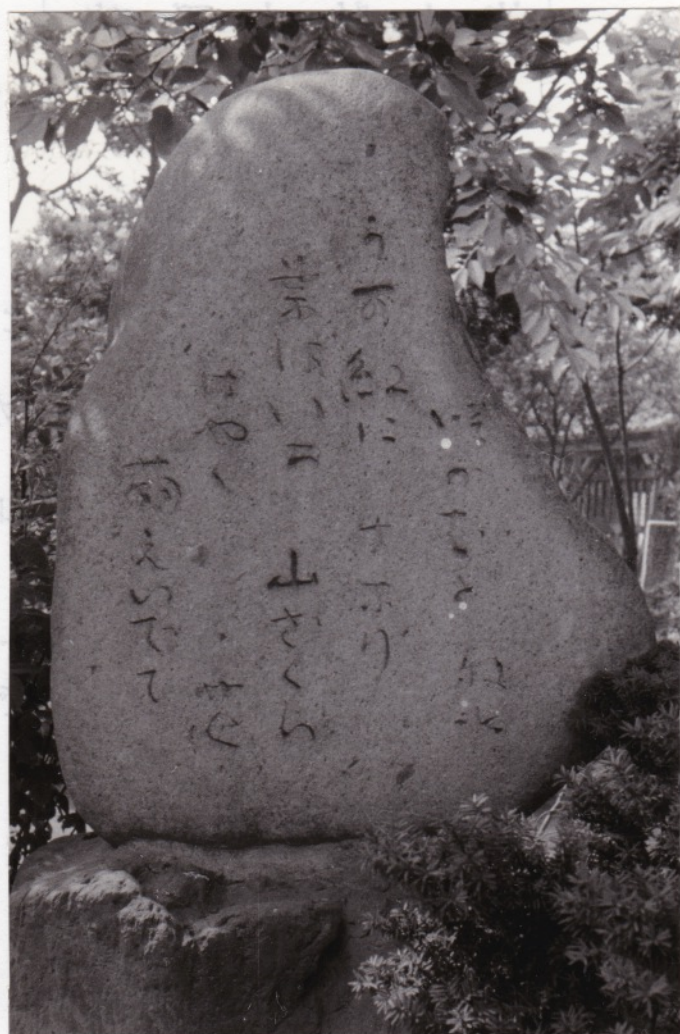
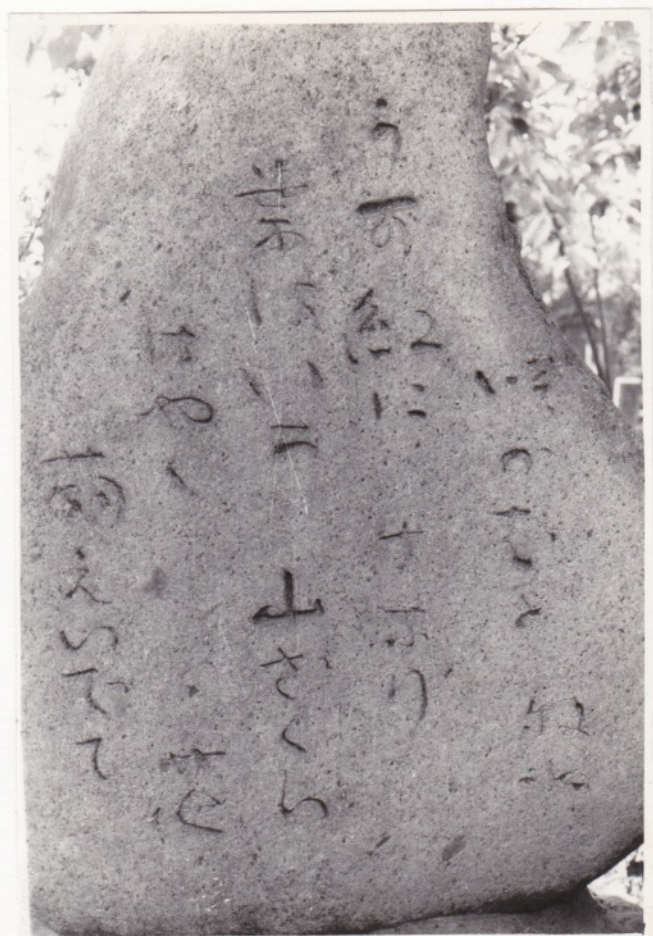
碑陰

昭和十一年十一月建之

名古屋創作支社

並 社友

有志



若山牧水歌碑

所在地 愛知県新城市広野 桜淵公園内

釣りくらし帰れば母に叱られき
しかれる母にわたしき鮎を 牧水

碑陰

若山牧水三十回忌記念 創作社友
昭和廿四年十一月立之

所在地 愛知県南設楽郡鳳来町 鳳来寺山 日輪院跡の前

佛法僧佛法僧と
なく鳥の声を
まねつつ飲める
酒かも 牧水

碑陰

文字なし



若山牧水歌碑

所在地 愛知県新城市桜淵 桜淵公園内

釣りくらし帰れば母に叱られき

しかれる母にわたしき鮎を 牧水

碑陰

若山牧水三十回忌記念 創作社友

昭和卅四年十一月立之

所在地 愛知県新城市鳳来町 鳳来寺山 日輪院跡の前

佛法僧佛法僧と

なく鳥の声を

まねつつ飲める

酒かも 牧水

碑陰

文字なし



1974. 10. 20. 1974. 10. 20.



金杉↓

圓光寺山の参道



仁王門(重文)



参道



仁王門(重文)



若山牧水歌碑

所在地 和歌山県那賀郡粉河町粉河 粉河寺中門の内側

粉河寺

碑陰

通路の衆の

那賀まことまゝ十周年記念

1974・5・5

打ち鳴らす

鉦々きこゆ

秋の樹の間に

牧水



若山牧水歌碑

所在地 和歌山県紀の川市粉河 粉河寺 中門の内側

↓ 本堂と庭園

粉河寺

遍路の衆の

打ち鳴らす

鉦々きこゆ

秋の樹の間に

牧水



碑陰

那賀ライオンズクラブ十周年記念

1974・5・5

↓ 本堂



← 中門
この内側に牧水の歌碑がある

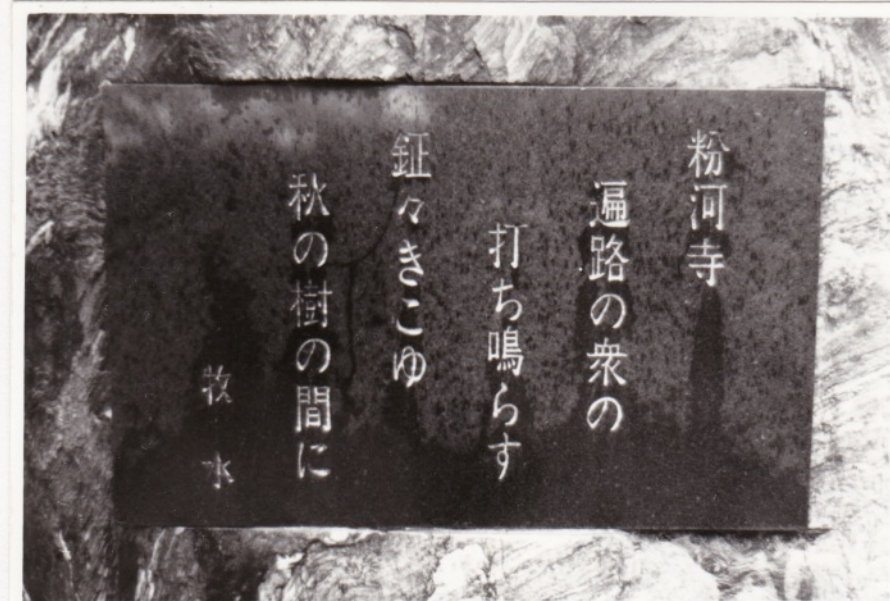


苔

苔

苔

のこ考々



粉河寺

遍路の衆の

打ち鳴らす

鉦々きこゆ

秋の樹の間に

牧水

若山牧水歌碑

所在地 和歌山県日高郡美浜町三尾三三 日の岬パーク

日の岬

こゆとふ

碑陰

今を

昭和四十七年十二月吉日

いちしろく

副碑

ふねぞ

一九一八年六月二日若山牧水

傾く

は熊野探勝の途次日の岬沖

暗き雨夜

航行中に詠まれた歌

を

一九五三年十二月三日 建てる

牧水



若山牧水歌碑

所在地 和歌山県日高郡美浜町三尾 2113 日の岬パーク

日の岬

こゆとふ

今を

いちしろく

碑陰

ふねぞ

昭和四十七年十二月吉日

傾く

暗き雨夜

を

牧水

副碑

一九一八年六月一日若山牧水
は熊野探勝の途次日の岬沖
航行中に詠まれた歌

一九七二年十二月三日 建てる



「茶」

日吉



日吉山より見たアサギカ村 ←

若山牧水歌碑

所在地 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町勝浦三九「字六中の島」遊覧橋

日の岬

潮岬は

過ぎぬれど

なほはるけしや

志摩の波切は

牧水

左側面

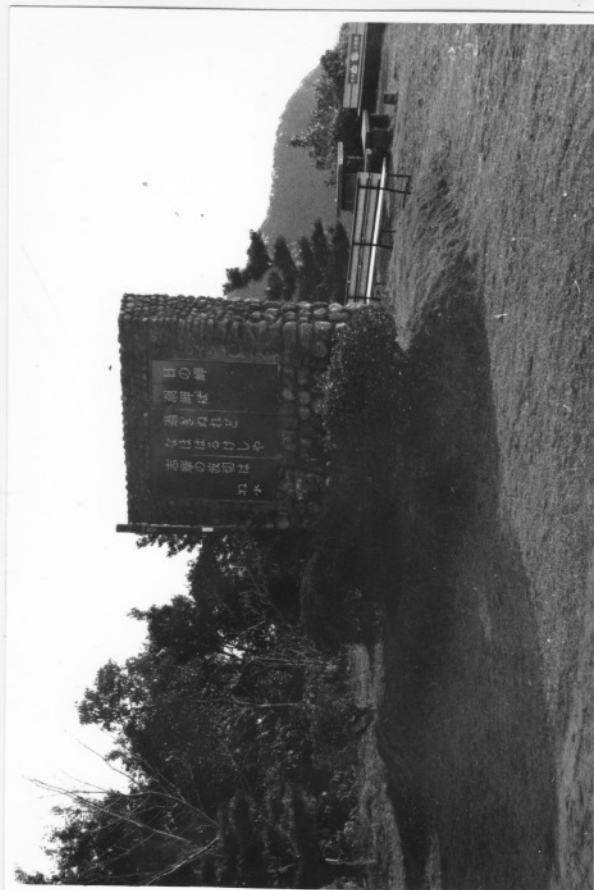
一九一八年六月二日 海路独り
勝浦港にたどりついた若山牧水
は熊野灘旅情をかく歌った

一九六三年十二月七日建てる

碑陰

紀宝町成川

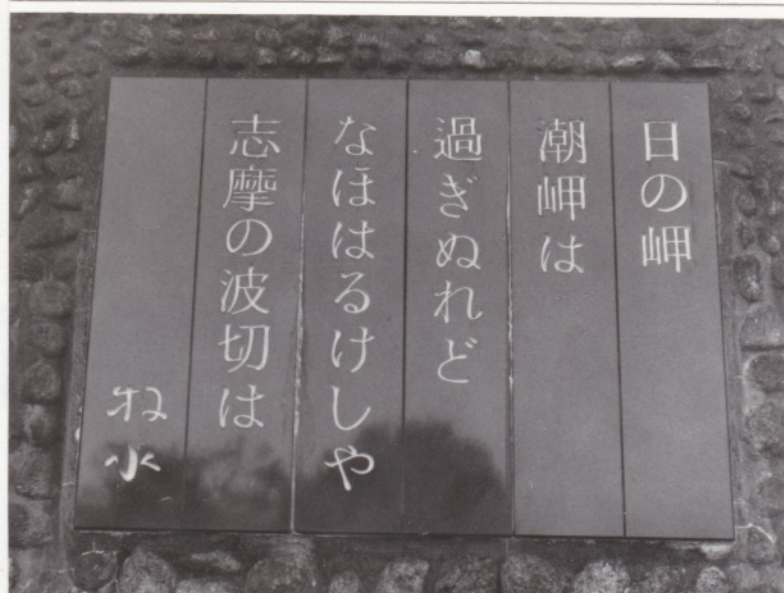
村山石材店彫刻



若山牧水歌碑

所在地 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町勝浦 1179 「ホテル中の島」遊歩道突端

日の岬
潮岬は
過ぎぬれど
なほはるけしや
志摩の波切は
牧水



左側面

一九一八年六月二日 海路独り
勝浦港にたどりついた若山牧水
は熊野灘旅情をかく歌った
一九六八年十二月七日建てる

碑陰

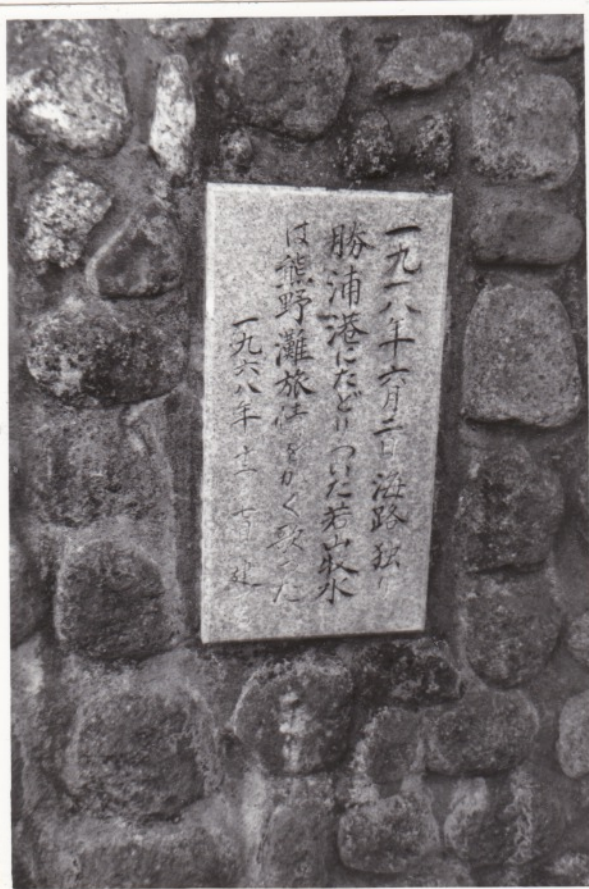
紀宝町成川
村山石材店彫刻



碑があるところより見たる景色
←



タ J セ R 地 理 学



16

若山牧水歌碑

所在地 岡山県阿哲郡哲西町 一本松峠 妙伝寺近く

幾山河

いそせりゆかは

そびしそめ

はてなむ國ぞ

けふる旅ゆく

牧水

碑陰

旧友 有本芳水

明治四十年夏若山牧水備中備後の国境を
越えんとして一本松峠にてこの作あり



若山牧水歌碑

所在地 岡山県新見市哲西町 二本松峠 妙伝寺近く

幾山河

こえさりゆかば

さびしさの

はてなむ國ぞ

けふも旅ゆく

牧水

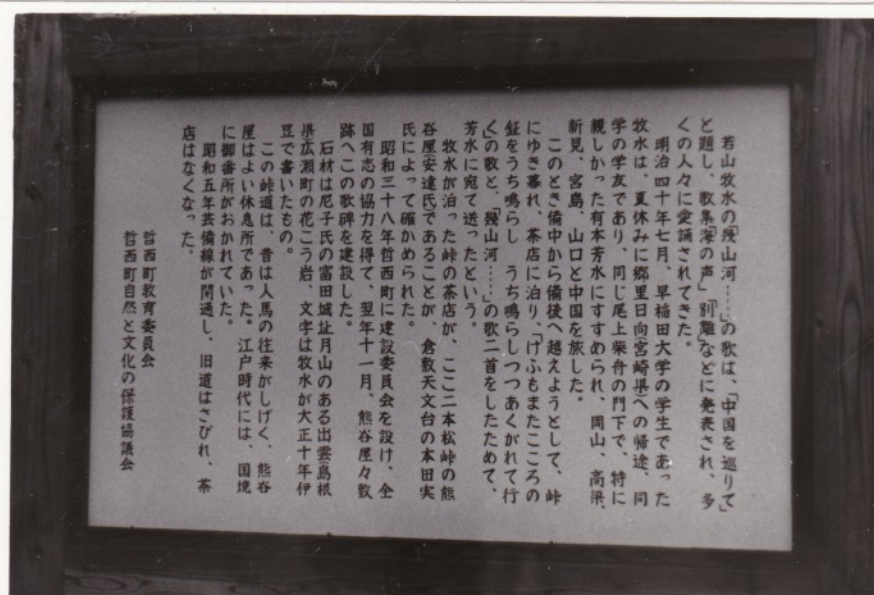
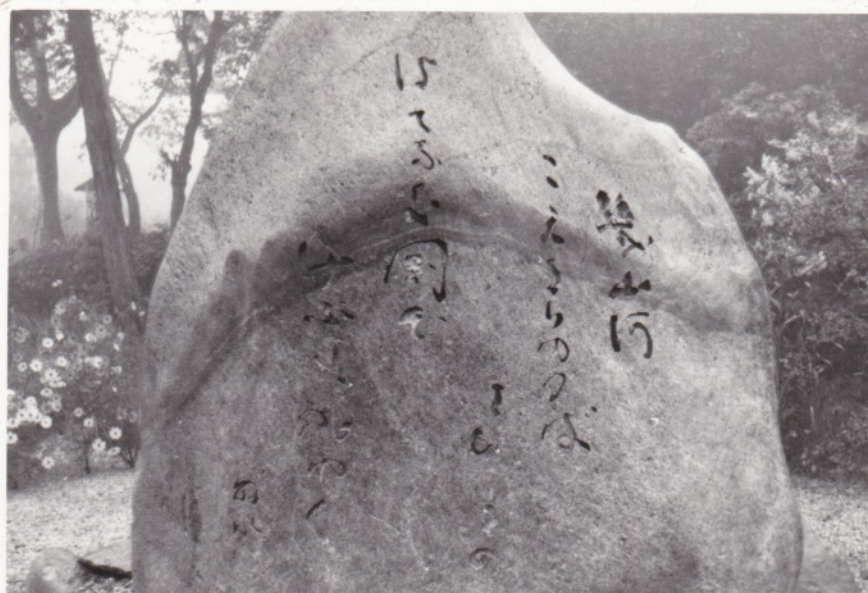
碑陰

旧友 有本芳水

明治四十年夏若山牧水備中備後の国境を
越えんとして二本松峠にてこの作あり



昔



若山喜志子歌碑

所在地 岡山県阿哲郡哲西町 二本松峠 妙伝寺近く

あくがれの

旅路ゆきつゝ

此処にやどり

この石文の

うたは残しゝ

喜志子

碑陰

この歌は昭和三十九年
十一月二十三日幾山河
の歌碑除幕のおり牧水
夫人から

うつそ身の老のかな
しきうらめしさ
ただ居て立ちつしの
ぶばかりぞ

とともにおくられた

昭和四十九年十二月三日建



若山喜志子歌碑

所在地 岡山県新見市哲西町 二本松峠 妙伝寺近く

あくがれの

旅路ゆきつゝ

此処にやどり

この石文の

うたは残しゝ

喜志子

碑陰

この歌は昭和三十九年
十一月二十三日幾山河
の歌碑除幕のおり牧水
夫人から

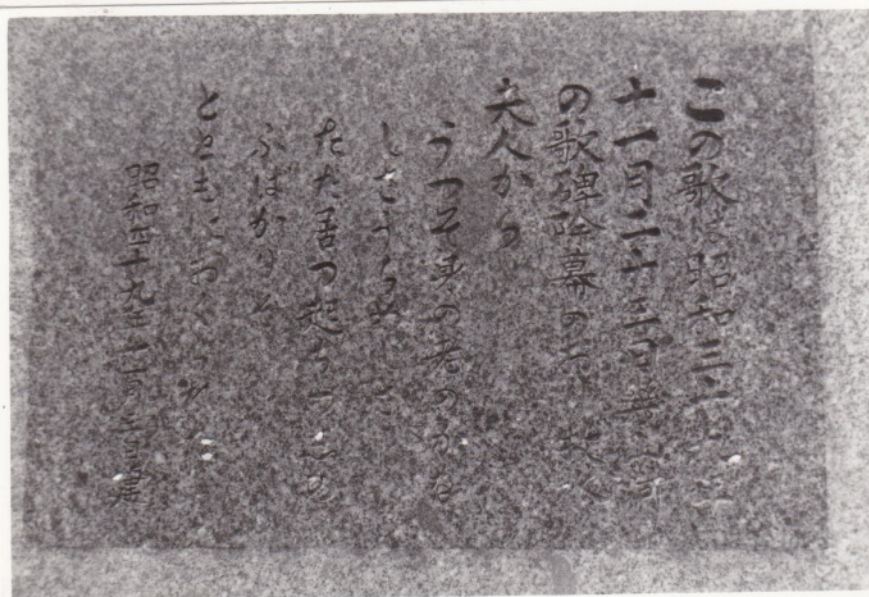
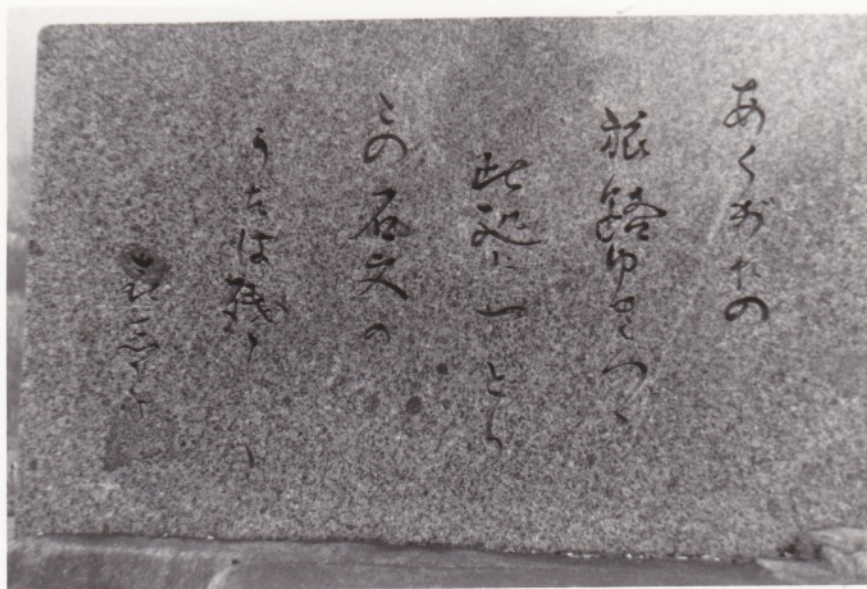
うつそ身の老のかな
しさうらめしさ
ただ居て起ちつしの
ぶばかりぞ

とともにおくられた
昭和四十九年十一月三日建



→ 若山喜志子歌碑

← 牧水歌碑



若山旅人歌碑

所在地 岡山県阿哲郡哲西町 一本松峠 妙伝寺近く

献 歌

昭和四十九年
十一月三日

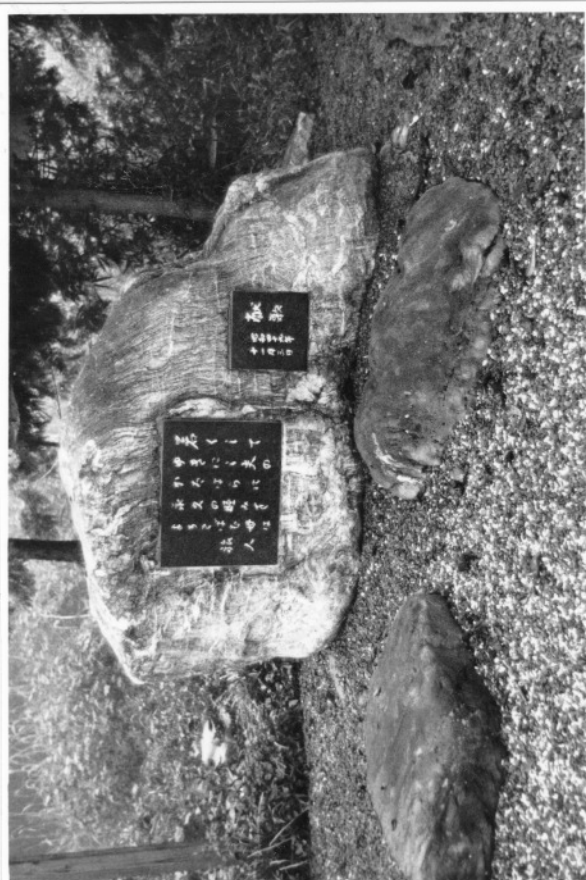
碑 陰

文字なし

(注) 昭和五十二年十二月三日建立

若くして
ゆきにし夫の
かたはらに
永久の睦みを
よろこばむ母は

旅 人



若山旅人歌碑

所在地 岡山県新見市哲西町 二本松峠 妙伝寺近く

二本松峠
の国境碑

献 歌

昭和四十九年
十一月三日

若くして
ゆきにし夫の
かたはらに
永久の睦みを
よろこばむ母は
旅人



碑陰

文字なし

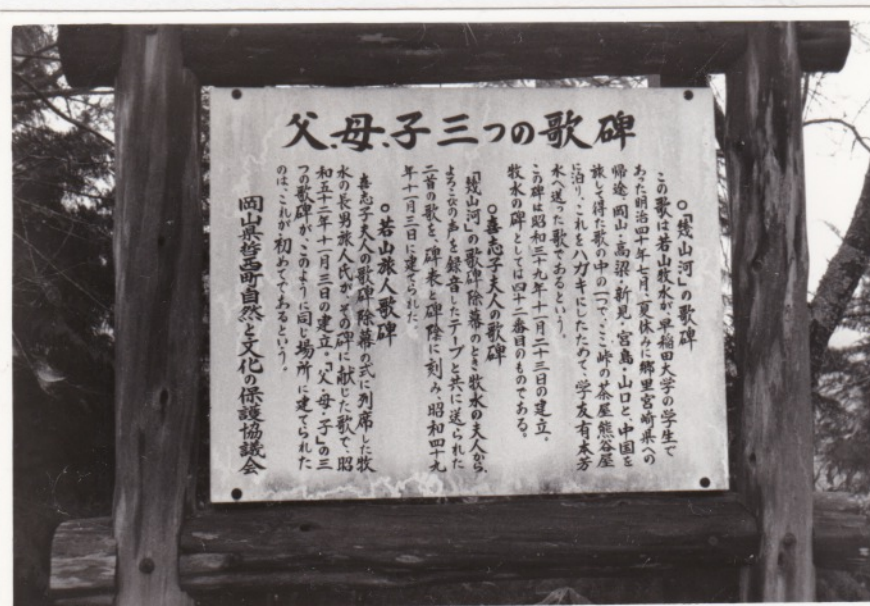
(注) 昭和五十二年十一月三日建立

牧水
↓
碑



← 旅人歌碑

↑
白 白
つ っ
た 右
花 左
従 従
是 是
東 西
備 備
中 後
国 国



若山牧水歌碑

所在地 広島県因島市土生町 因島公園内 つれじおの石ぶみ

岩角より

碑陰

のぞくかなし

文字なし

き

海の隅に

あわれ舟人

われも帆を

あぐ



若山牧水歌碑

所在地 広島県尾道市土生町 因島公園内 つれじおの石ぶみ

岩角より
のぞくかなし
き

海の隅に
あわれ舟人
ちさき帆を
あぐ

碑陰

文字なし



若



若山牧水歌碑

所在地 山口県山口市香山七一 瑠璃光寺公園内 五重塔横

はつ夏の

山のなかなる

ふる寺の

古塔のもとに

立てる旅人

牧水詠

喜志子書

碑陰

昭和二十九年六月建之

山口市



若山牧水歌碑

所在地 山口県山口市香山 7-1 瑠璃光寺公園内 五重塔横

は っ 夏 の
 山 の な か な る
 ふ る 寺 の
 古 塔 の も と に
 立 て る 旅 人

牧水詠
 喜志子書



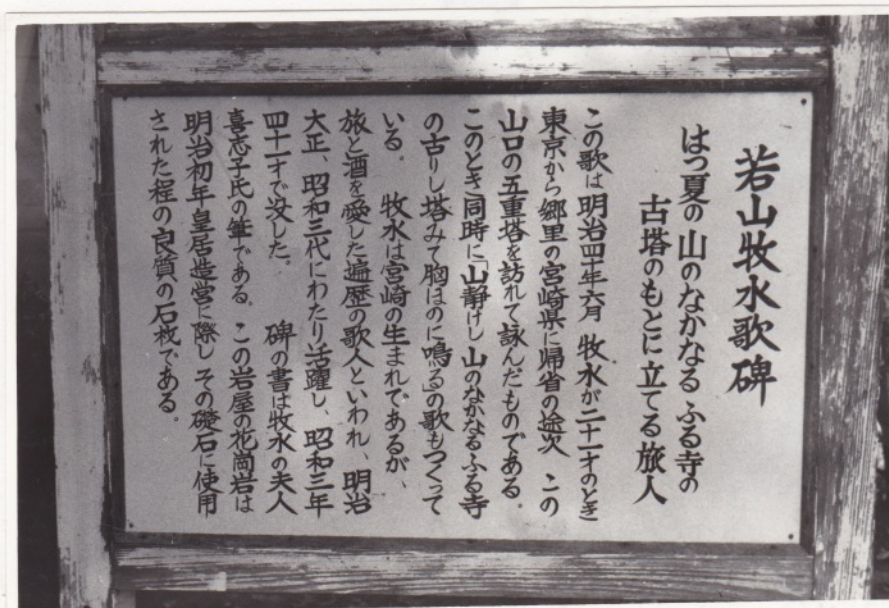
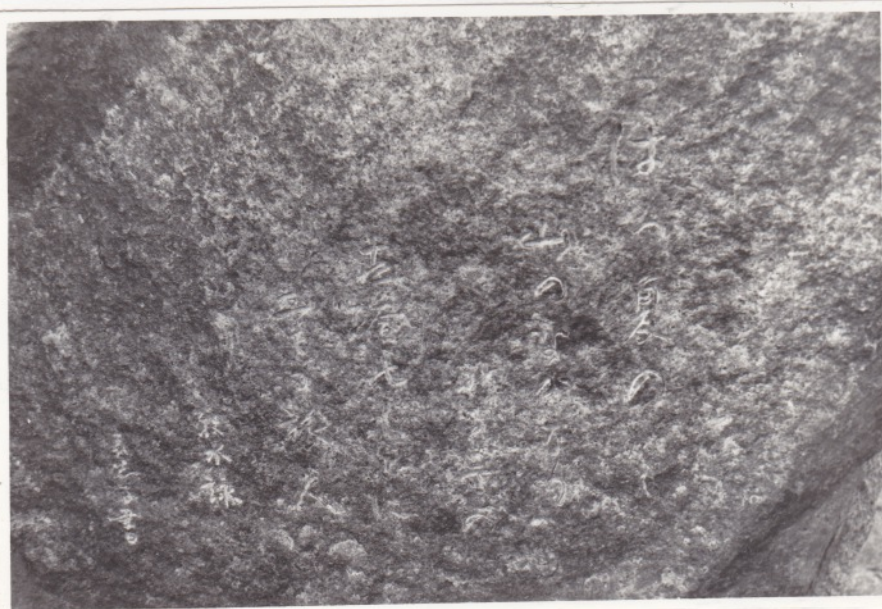
昔の歌碑 ←

碑陰

昭和三十九年六月建之
 山 口 市

国宝五重塔 ↓ ↓





若山牧水歌碑

はつ夏の山のなかななるふる寺の
古塔のもとに立てる旅人

この歌は明治四年育牧水が二十才のとき
東京から郷里の宮崎県に帰省の途次、この
山口の五重塔を訪れて詠んだものである。
このとき同時に山静けし山のなかななるふる寺
の古りし塔みて胸ほのに鳴るの歌もつづて
いる。牧水は宮崎の生まれであるが、
旅と酒を愛した遍歴の歌人といわれ、明治
大正、昭和三代にわたり活躍し、昭和三年
四十才で歿した。碑の書は牧水の夫人
喜志子氏の筆である。この岩屋の花崗岩は
明治初年皇居造営に際しその礎石に使用
された程の良質の石枕である。

若山牧水歌碑

所在地 山口県柳井市伊保庄 開作の沖の鴉島

からす島

かげりて黒き

磯のうはに

千鳥こそをれ

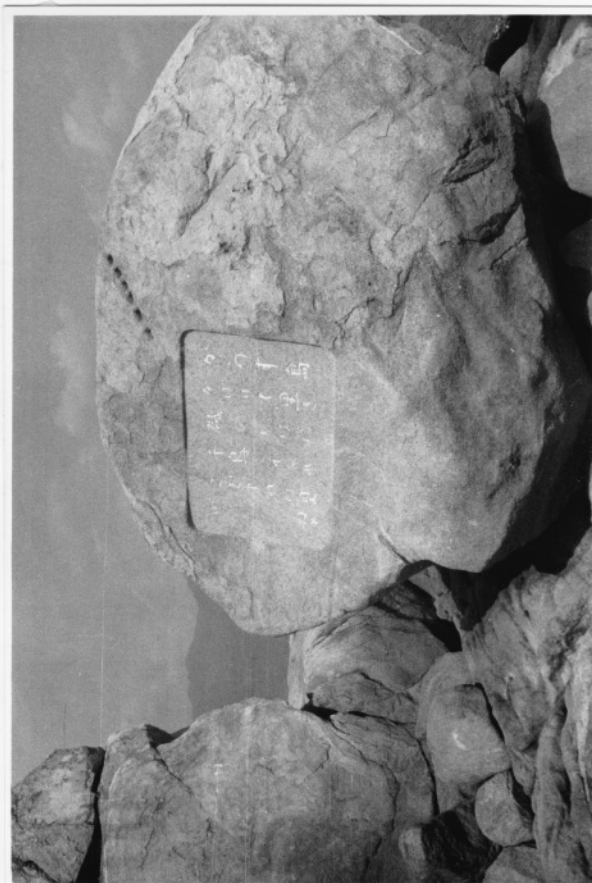
んぎふれば見

ゆ

牧水

碑陰

文字なし



若山牧水歌碑

所在地 山口県柳井市伊保庄 開作の沖の鴉島

か ら す 島

か げ り て 黒 き

磯 の い は に

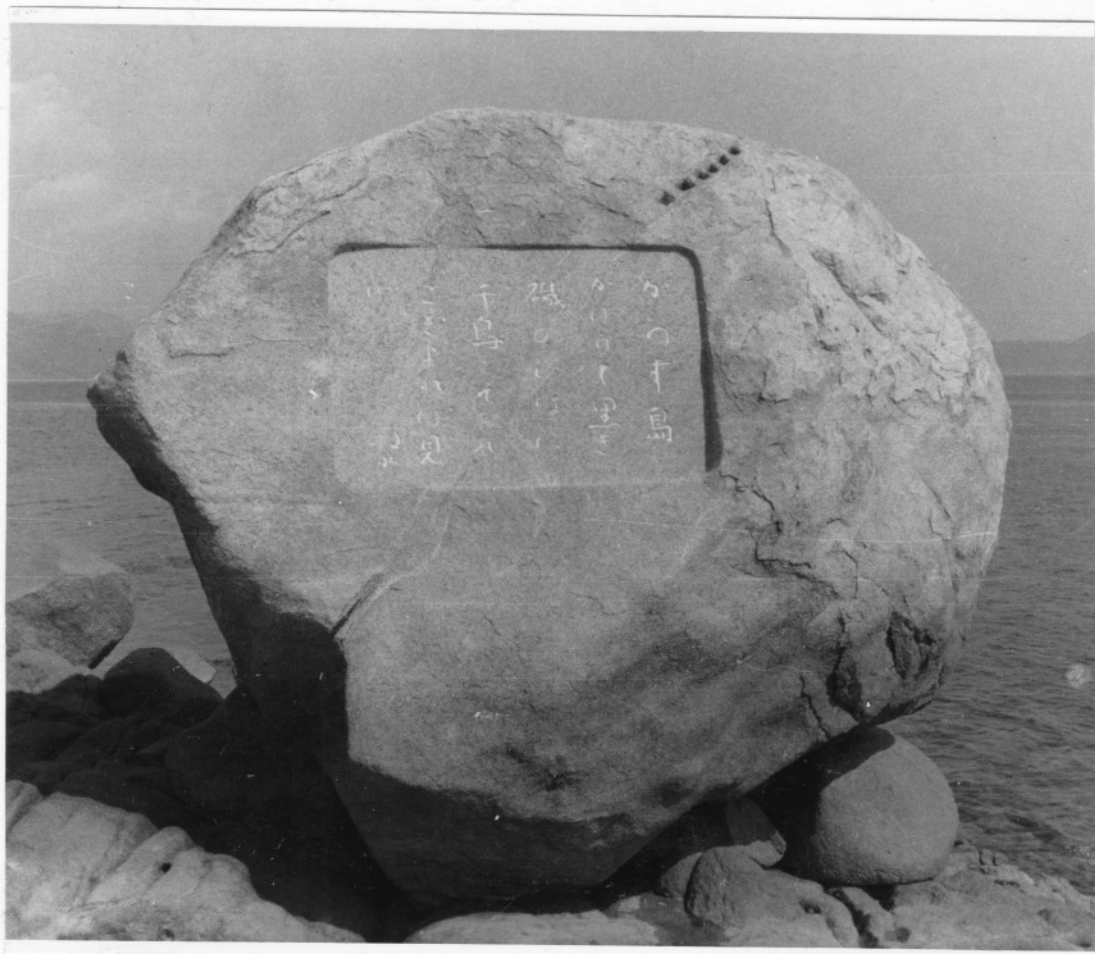
千 鳥 こ そ を れ

こ ぎ よ れ ば 見

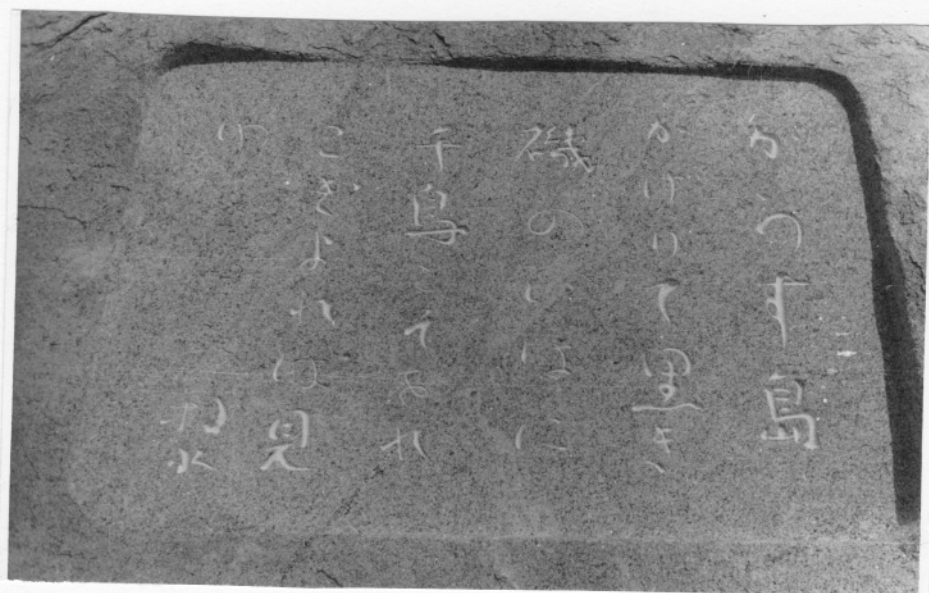
ゆ 牧 水

碑陰

文字なし



5372



若山牧水・吉井勇歌碑

所在地 愛媛県越智郡岩城村東 岩城郷土館 玄関内

岩

つれなきは岩城の浜のしき波の

何と心をかけそしめけむ

碑陰
文字なし

衣笠内大臣「新撰六帖」

城

ゆた／＼にはやく潮満てゆた／＼に

酒さかづきにみちてあるほどに

郷

三浦君が離室にて 若山牧水

土

牧水がむかしの酒のにはひひて

岩城の夜は寂しかりけり

館

三浦水荘にやどりて 吉井 勇

昭和五十七年遷暦者一同四月吉日建之



若山牧水・吉井勇歌碑

所在地 愛媛県越智郡上島町岩城東 岩城郷土館 玄関内

館 土 郷 城 岩 (横書き)

(この下に次の三首の歌が縦書きで書かれている)

つれなきは岩城の浜のしき波の

何と心をかけそしめけむ

衣笠内大臣 「新撰六帖」

ゆた／＼にはやく潮満てゆた／＼に

酒さかづきにみちてあるほどに

三浦君が離室にて 若山牧水

牧水がむかしの酒のにほひして

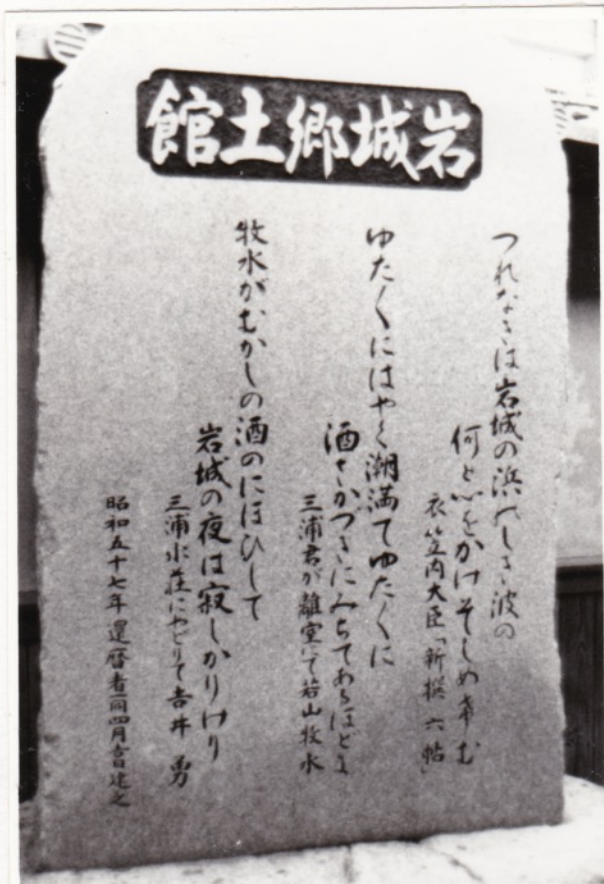
岩城の夜は寂しかりけり

三浦水荘にやどりて 吉井勇

昭和五十七年還暦者一同四月吉日建之

碑陰

文字なし



若山牧水・若山喜志子歌碑

所在地 愛媛県越智郡岩城村東 岩城郷土館 中庭

三浦君が
離室にて

空窓則の瀬日はいつしか瀬となりぬ

白き浪たちほらとぎす啼く
牧水

わがき身に餘るうれひを一つももて
いく日をここに宿りましけむ
喜志子

昭和三年
十月二日

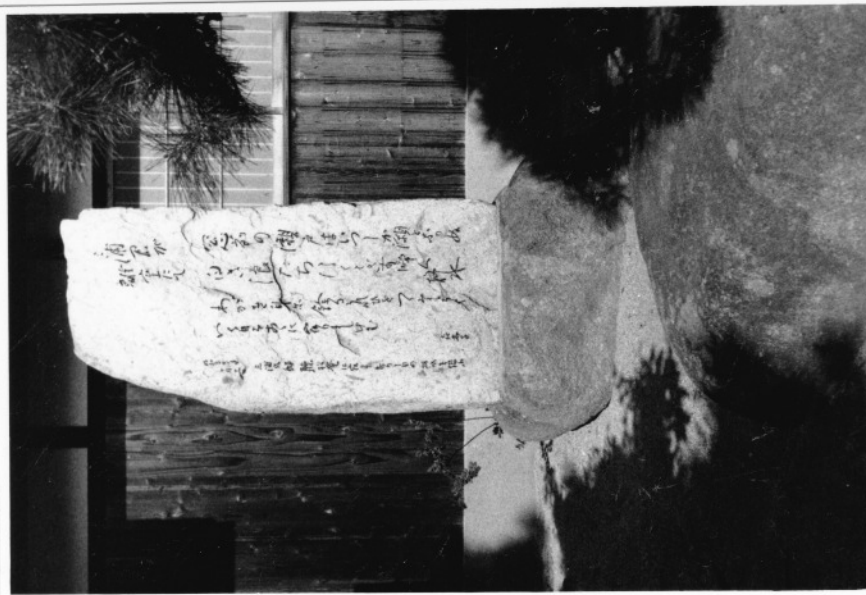
三浦氏 邸 聴松庵 に宿りて 在りし日の 牧水を偲ぶ

碑陰

大正三年五月

歌聖 若山牧水 詠並書

昭和三年八月建之



若山牧水・若山喜志子歌碑

所在地 愛媛県越智郡上島町岩城東 岩城郷土館 中庭

三浦君が 窓前の瀬戸はいつしか瀬となりぬ
離室にて 白き浪たちほととぎす啼く
牧水

わかき身に餘るうれひをつゝみもちて

いく日をこゝに宿りましけむ

喜志子

昭和二十七年

十月十一日 三浦氏邸 聴松庵に宿りて 在りし日の 牧水を偲ぶ

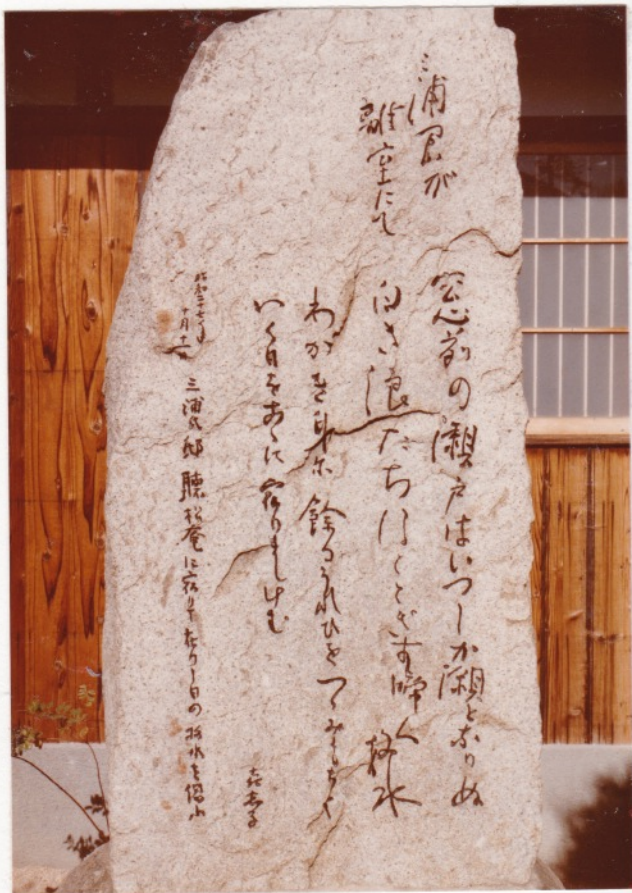
碑陰

大正二年五月

昭和三十八年八月建之

歌聖 若山牧水詠並書

轉廻千志喜山苔・木妙山苔



若山牧水歌碑

所在地 愛媛県川之江市川之江町三ツ峯 川之江八幡神社境内

みなの上にもきたてる雲の

碑陰

紅ゐのあせゆくなべに

文字なし

秋の風ふく

牧水

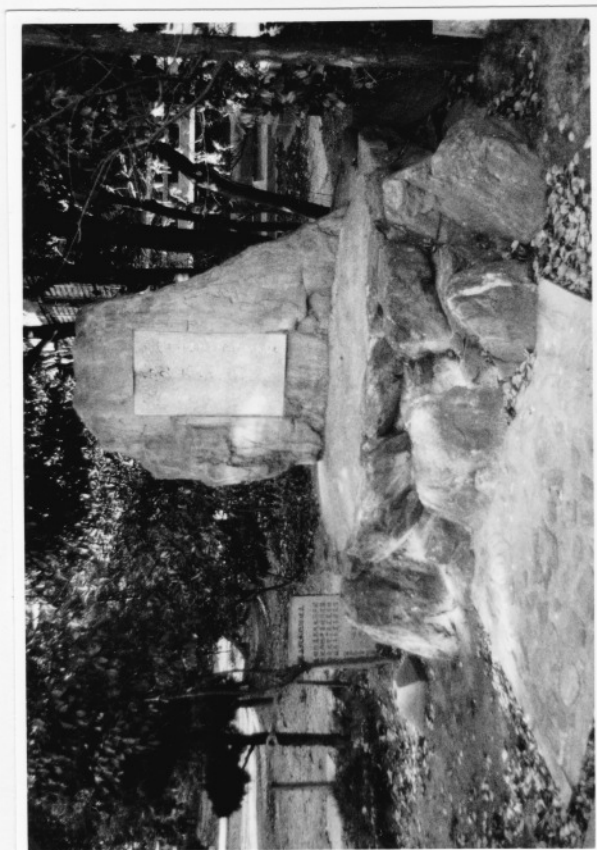
副碑

若山牧水歌碑建立

十六名列記

(省略)

竹内□□
竹内□□
竹内□□
竹内□□



若山牧水歌碑

所在地 愛媛県四国中央市川之江町 2567 塩谷 川之江八幡神社境内

みねの上にまきたてる雲の

紅ゐのあせゆくなべに

秋の風ふく

牧水

碑陰

文字なし

副碑

若山牧水歌碑建立（横書き）

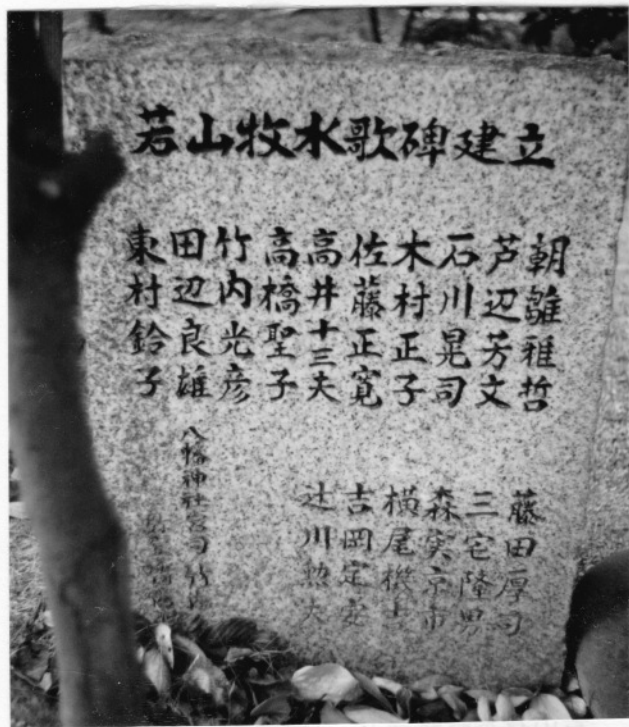
十六名列記（省略）（縦書き）

八幡神社宮司 竹内□□

禰宜 竹内□□

（縦書き）

若山歌水碑建立



若山牧水歌碑

所在地 大分県下毛郡本耶馬溪町曾木「竈」 「ネトウ洞門」前

耶馬溪にて

若山牧水

安芸の国越えて長門に

またこえて豊の国ゆき

ほととぎす聴く

ただ恋し

うらみ怒りは影もなし

暮れて旅籠の欄に倚るとき

碑陰

明治四十年夏、二十一歳まだ早稲田大学の学生だった若山牧水は、暑中休暇で郷里日向に帰省の途次、中国地方で「幾山河」の歌を遺し、九州に入って耶馬溪に遊び、七月九日青部落の山国屋に旅装を解き、この二首を遺した。

(木村主税識)

耶馬溪中津創作支社

山 国 町

耶 馬 溪 町

本 耶 馬 溪 町

三 光 町

昭和五年十二月三日

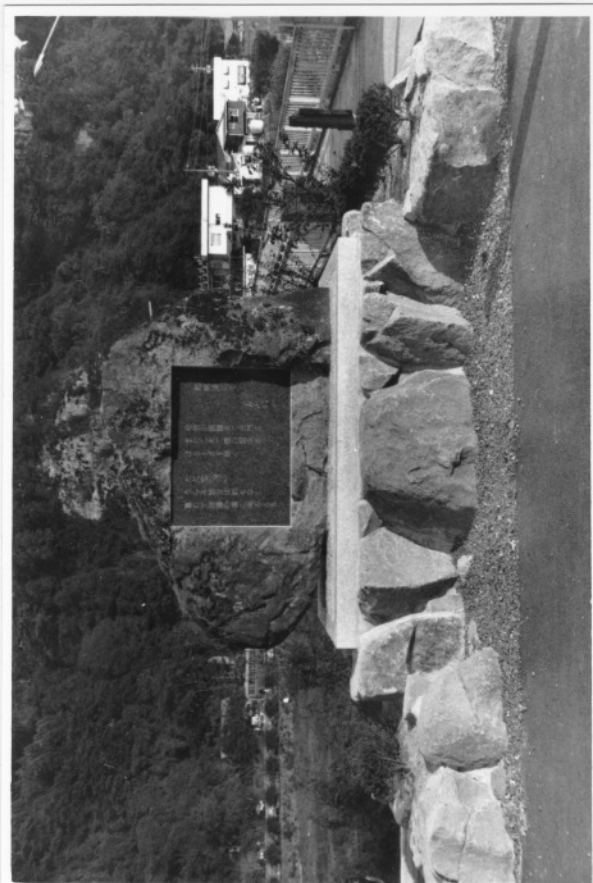
副碑

若山牧水歌碑

裏面

牧水歌碑々牌

昭和五年九月七日 永人書



若山牧水歌碑

所在地 大分県中津市本耶馬溪町曾木 184-1 「レストハウス洞門」前

耶馬溪にて

若山牧水

安芸の国越えて長門に
またこえて豊の国ゆき
ほととぎす聴く

ただ恋し

うらみ怒りは影もなし

暮れて旅籠の欄に倚るとき

碑陰

明治四十年夏、二十一歳まだ早稲田大学の学／生だった若山牧水は、／
暑中休暇で郷里日向に／帰省の途次、中国地方／で「幾山河」の歌を遺し、／
九州に入って耶馬溪に／遊び、七月九日青部落／の山国屋に旅装を解き／
この二首を遺した。／ (木村主税識)／

耶馬溪中津創作支社／山 国 町／耶 馬 溪 町／
本 耶 馬 溪 町／三 光 町／ 昭和五十一年十一月三日



副碑

若山牧水歌碑

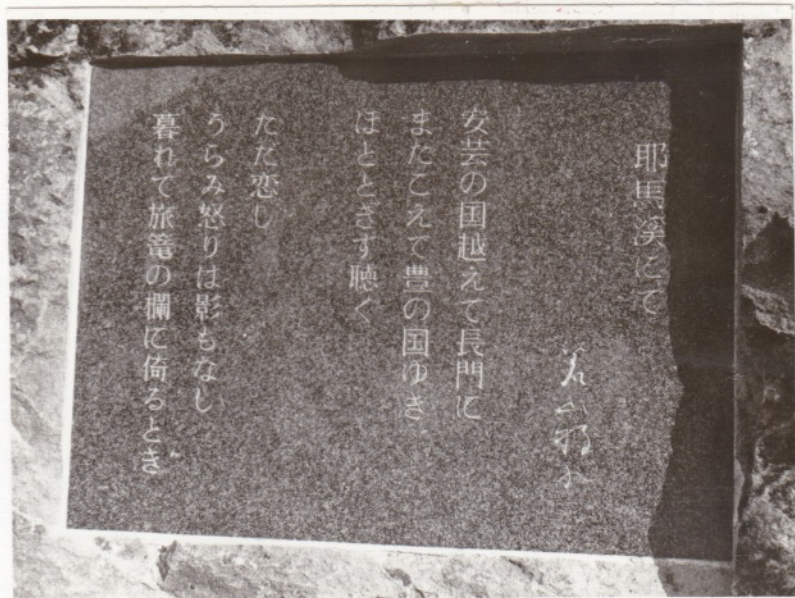
裏面

牧水歌碑々牌

昭和五十一年九月一七日 旅人書

←青の洞門

↑山国川



若山牧水歌碑

所在地 福岡県福岡市城南区片江南町四四十二 文学碑公園内

幾山河こえそりゆかば

碑陰

寂しそのはてなむ國ぞ

文字なし

けふも旅ゆく

牧水

所在地 福岡県福岡市城南区片江南町四四十二 文学碑公園内

幾山河こえそりゆかば

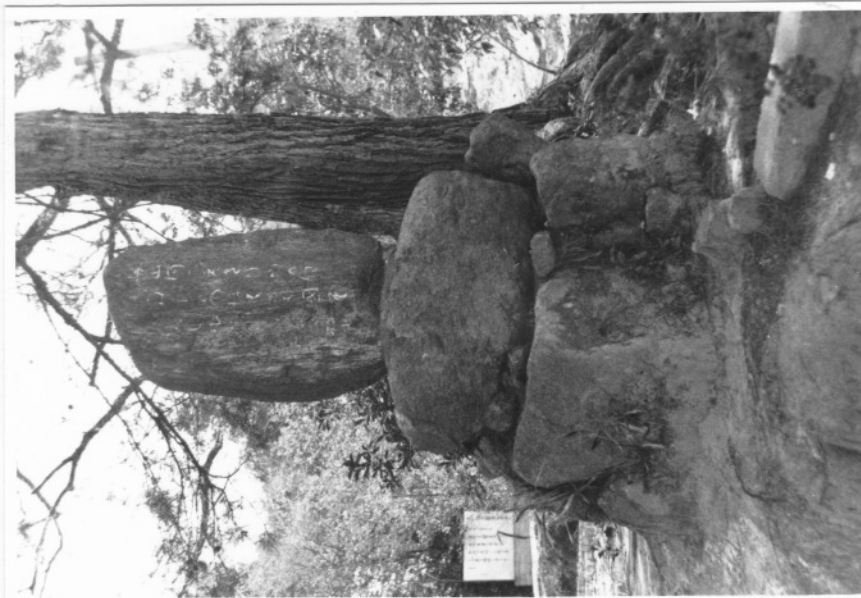
碑陰

寂しそのはてなむ國ぞ

文字なし

けふも旅ゆく

牧水



若山牧水歌碑

所在地 福岡県福岡市城南区片江南町 4-41-12 文学碑公園内

幾山河こえさりゆかば

寂しさのはてなむ國ぞ

けふも旅ゆく 牧水

碑陰

文字なし

所在地 福岡県福岡市城南区片江南町 4-41-12 文学碑公園内

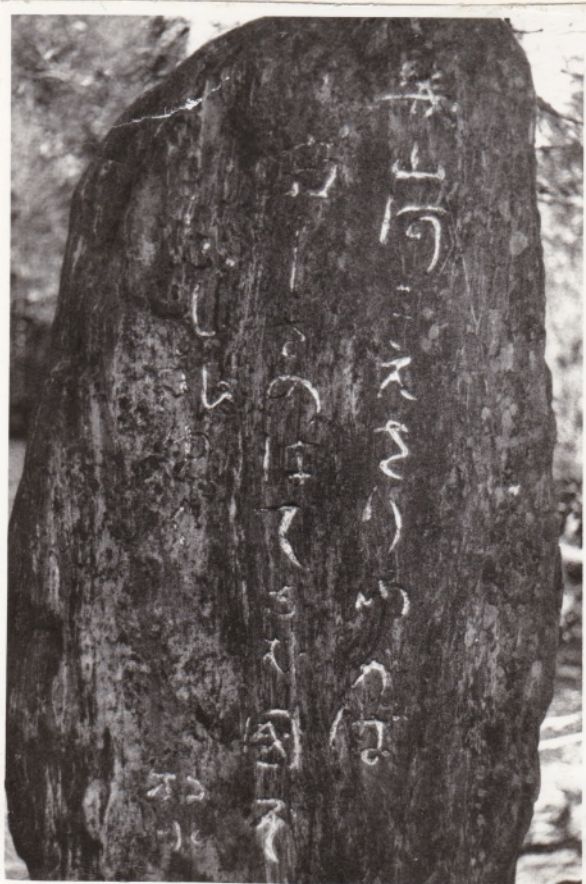
幾山河こえさりゆかば

寂しさのはてなむ國ぞ

けふも旅ゆく 牧水

碑陰

文字なし



泰山の石

泰山の石

泰山の石



若山牧水歌碑

所在地 福岡県福岡市城南区片江南町四四三二 文学碑公園内

かたはらに秋くさの花かたむらく
ほろひしものはなつかしきかな 牧水

碑陰

文字なし

所在地 福岡県北九州市戸畑区南鳥旗町五五角地(かど) (毛利宅跡)

われみたび此処に来
りつ家のあるじ
寂び定まりて静か
なるかも 昭和二年五月 牧水

左側面

毛利雨一樓宅跡

昭和三年三月十一日

戸畑市教育委員会

戸畑短歌会

戸畑郷土研究会

昭和二年五月 牧水
十三日 雨



若山牧水歌碑

所在地 福岡県福岡市城南区片江南町 4・41・12 文学碑公園内

かたはらに秋くさの花かたるらく
ほろひしものはなつかしきかな 牧水

碑陰

文字なし

所在地 福岡県北九州市戸畑区南鳥旗町 5・5 角地（毛利氏宅跡）

われみたび此処に来
りつ家のあるじ
寂び定まりて静か
なるかも 昭和二年五月 牧水

十三日 雨



左側面

毛利雨一樓宅跡

昭和三十六年二月十二日

戸畑市教育委員会

戸畑短歌会

戸畑郷土研究会



うるあの家こり



若山牧水歌碑

所在地 福岡県北九州市戸畑区中央公園隣 八幡神社横

新 堀 の こ の 坂 道 の
す そ と ほ し 友 の す が
た の 其 処 ゆ 登 り 来
牧 水

碑 陰

若山牧水が戸畑を訪れたのは前後二回であるが
この碑の歌は大正十四年十二月、日牧水夫妻が八幡から
鞘ヶ谷を越えて戸畑に来たときのものである

昭和三十年三月十五日

北戸戸畑市教育委員会
九畑畑市郷土研究会
州郷土研究会
創作研究会
支社



若山牧水歌碑

所在地 福岡県北九州市戸畑区 中央公園隣 八幡神社横

新 墾 の この 坂 道 の
す そ と ほ し 友 の す が
た の 其 処 ゆ 登 り 来

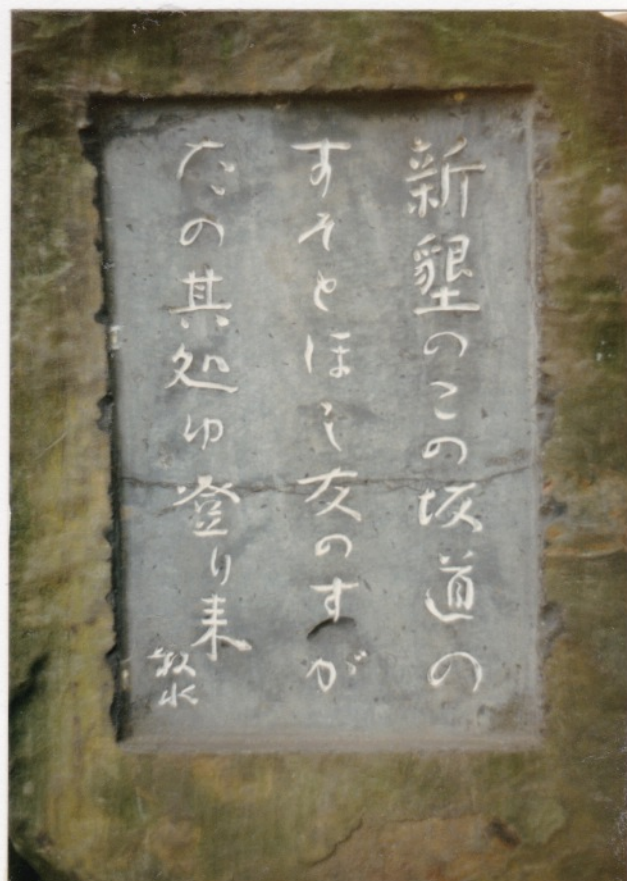
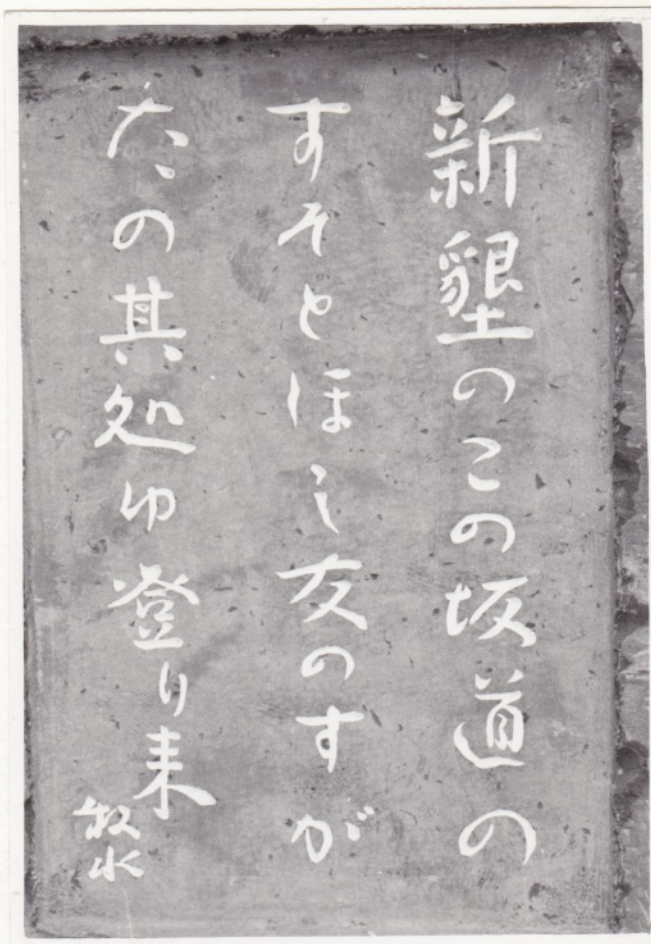
牧 水

碑陰

若山牧水が戸畑を訪れたのは前後三回であるが
この碑の歌は大正十四年十一月七日牧水夫妻が八幡から
鞘ヶ谷を越えて戸畑に来たときのものである

昭和三十六年三月十二日

戸畑市教育委員会
戸畑短歌会
戸畑郷土研究会
北九州創作支社



若山牧水歌碑

所在地 福岡県大川市小保二〇三 志岐照雄氏宅庭内

大川にわれは来にけ

りおほかはの流るる

ことく酒わける里に

牧水

昭和三年仲秋建之

碑陰

文字なし



若山牧水歌碑

所在地 福岡県大川市小保 1022 志岐照雄氏宅庭内

大川にわれは来にけ
りおほかわの流るる
ごとく酒わける里に

牧水

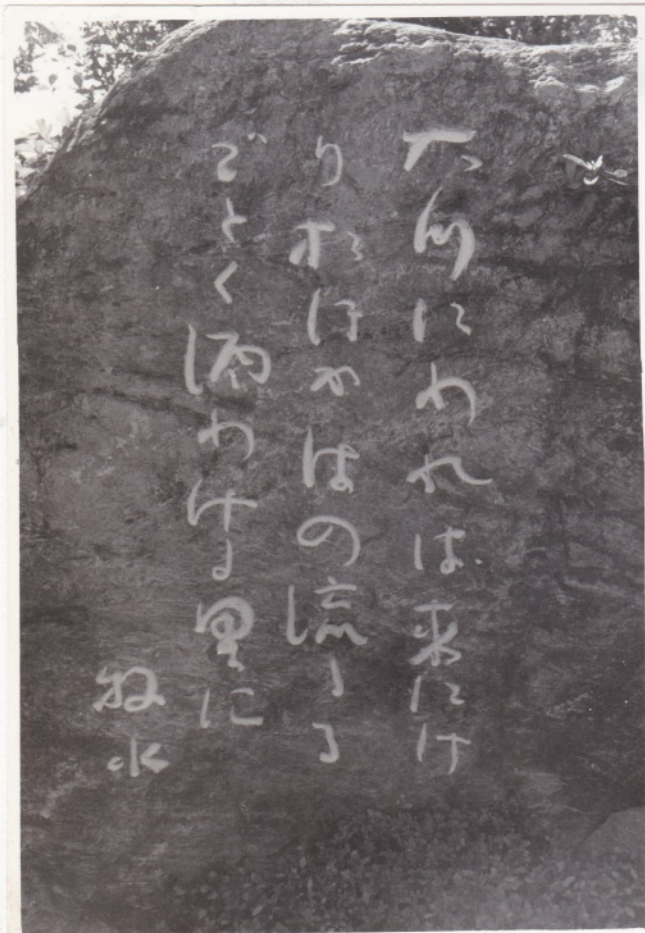
昭和三十九年仲秋建之

碑陰

文字なし



春



若山牧水・喜志子歌碑

所在地 熊本県阿蘇郡長陽村栃木 「荒牧旅館別館」前

名を聞きて久しかりしか栃の木の
いで湯に来り入ればたのしき 牧水

左側面

妹と背の滝つ瀬あれや日ごましの

たきにそひたる鮎かへりの滝 喜志子

斜め後ろ

北向の月も名残りを白川の

流れに宿すいで湯栃木 政光

右側面

有志と共に館主荒牧ヒデ刀自の喜寿を寿ぎ叙勲を祝し大正十
四年十一月牧水夫妻来遊の砌の詠歌を貞苑に刻み此処に贈る
昭和五年十二月十日 発起人 久野木村出身 江藤政光撰

碑陰

賛助者氏名多数(省略)

台石正面 若山牧水喜志子之歌碑



若山牧水・喜志子歌碑

所在地 熊本県阿蘇郡南阿蘇村栃木 「荒牧旅館別館」前

名を聞きて久しかりしか栃の木の
いで湯に來り入ればたのしき 牧水

(左側面)

妹と背の滝つ瀬あれや目ざましの
たきにそひたる鮎かへりの滝 喜志子

(斜め後ろ)

北向の月も名残りを白川の
流れに宿すいで湯 栃木 政光

台石正面 (横書き)

若山牧水喜志子之歌碑

右側面

有志と共に館主荒巻ヒデ刀自の喜寿を壽ぎ叙勲を祝し大正十
四年十一月牧水夫妻來遊の砌の詠歌を貞珉に刻み此處に贈る
昭和五十二年十二月二十日 發起人 久野木村出身 江藤政光撰

碑陰

賛助者 氏名多数 (省略)



若山牧水歌碑

所在地 宮崎県宮崎市青島 青島への途中 左側手前

檳榔樹の古樹を想へ

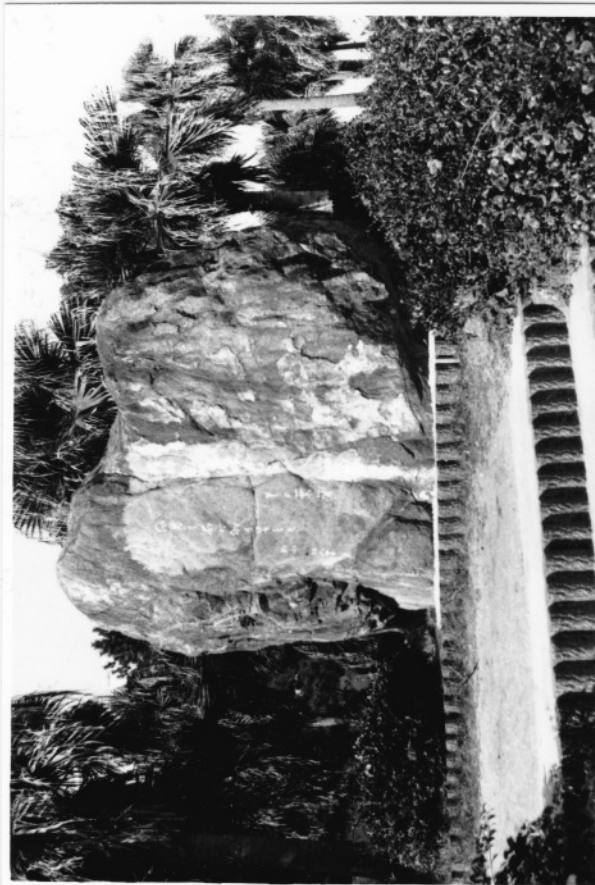
その葉蔭

海見て石に似る男をも

牧水 旅人書

碑陰

明治四十年七月早稲田大学
在学中三王蔭に青島を訪れ
たときの作である
牧水生誕百年を記念し
建立する
尚書は牧水長子旅人に依る
昭和六年九月二十一日
若山牧水生誕百年祭記念事業
宮崎市実行委員会 日 曙



若山牧水歌碑

所在地 宮崎県宮崎市青島 青島への途中 左側手前

檳榔樹の古樹を想へ

その葉蔭

海見て石に似る男をも

牧水 旅人書

碑陰

明治四十年七月早稲田大学
在学中(二十歳)に青島を訪れ
たときの作である

牧水生誕百年を記念し
建立する

尚書は牧水長子旅人に依る

昭和六十年九月二十一日

若山牧水生誕百年祭記念事業

宮崎市実行委員会 □□謹書



岩

青島市

耐





若山牧水歌碑

所在地 宮崎県宮崎市浄土江町 文化の森内

わか竹の
伸びゆくごとく
子どもらよ
眞すぐにのばせ
身をたましひを
牧水

碑陰

この碑は、宮崎科学技術館開館を記念し、明日をになう子供たちのすこやかな成長を願い、建立したものである。

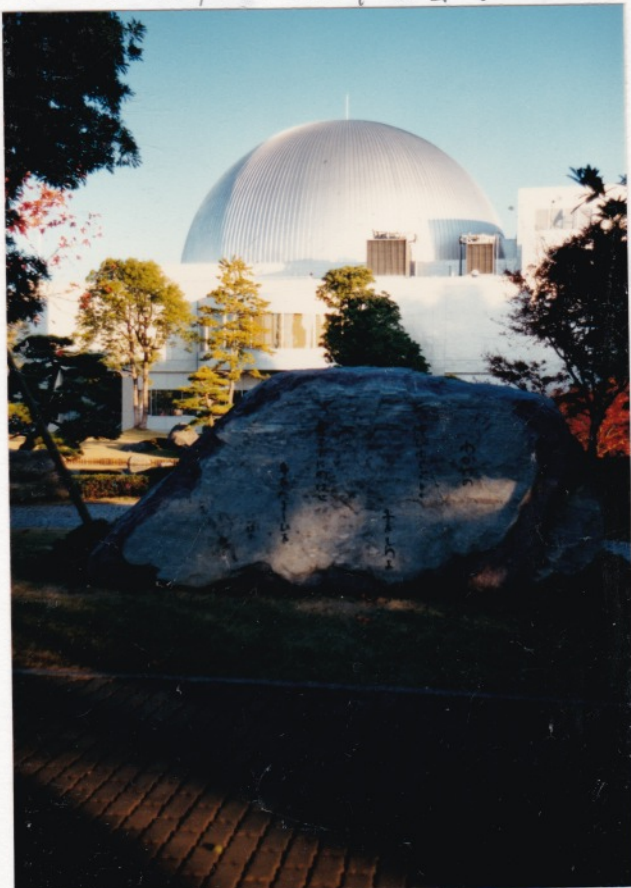
歌は、牧水歌集第十五巻「黒松」に「やよ少年たちよ」と題して収録されている九首の中の一詩である。

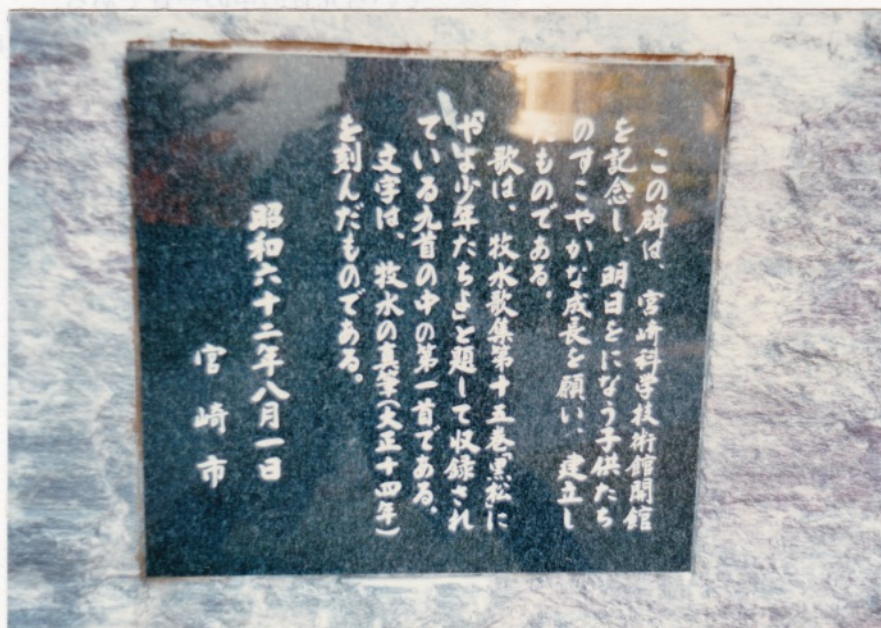
文字は、牧水の真筆（大正十四年）を刻んだものである。

昭和六十二年八月一日

宮崎 市

ドームは「宮崎科学技術館」↓





若山牧水歌碑

所在地 宮崎県児湯郡都農町 JR都農駅前

ふるさとの尾鈴のやまのかげに
秋もかすみのたなびきてさり

牧水

碑陰

文字なし

所在地 宮崎県日向市細島 御鉢ヶ浦公園内

ふるさとの

お秀が墓に

草枯れむ

海に向へる

彼の岡の上に

牧水

碑陰

昭和三十六年六月建之

松田仙峽

鐫刻 中城栄夫



若山牧水歌碑

所在地 宮崎県児湯郡都農町 JR都農駅前

ふるさとの尾鈴のやまのかなしさよ
秋もかすみのたなびきてをり 牧水

碑陰

文字なし

所在地 宮崎県日向市細島 御鉾ヶ浦公園内

ふるさとの
お秀が墓に
草枯れむ
海に向へる
彼の岡の上に

牧水



碑陰

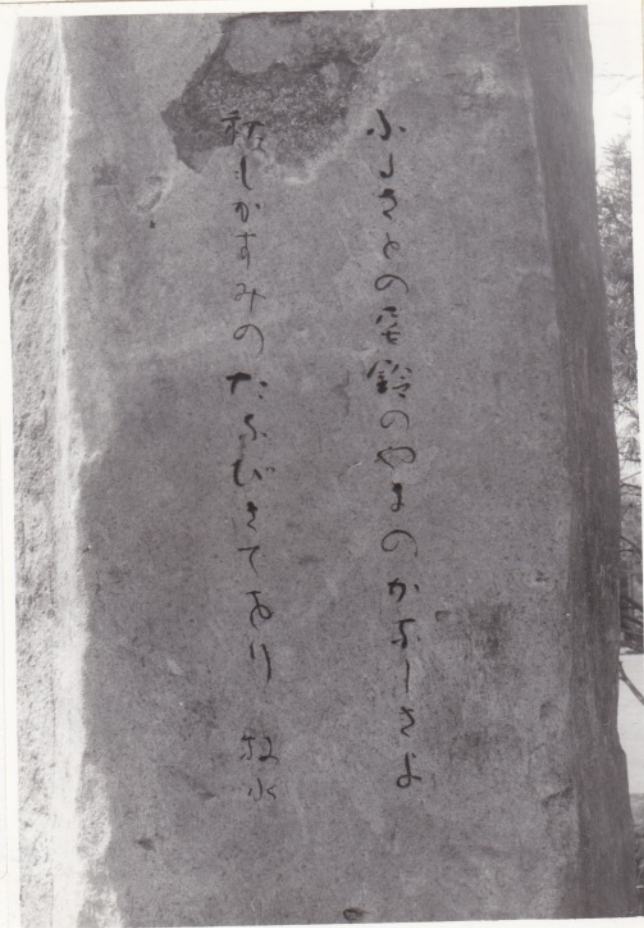
昭和三十六年六月建之

松田仙峽

鐫刻 中城栄夫



碑の所より見た入江→



石墓の表

草部

新の向へる



昭和三十六年六月

若山牧水歌碑

所在地 宮崎県日向市上町 1-19 J R日向市駅 上り線ホーム

幾 山 河

こ え さ り 行 か ば

寂 し さ の

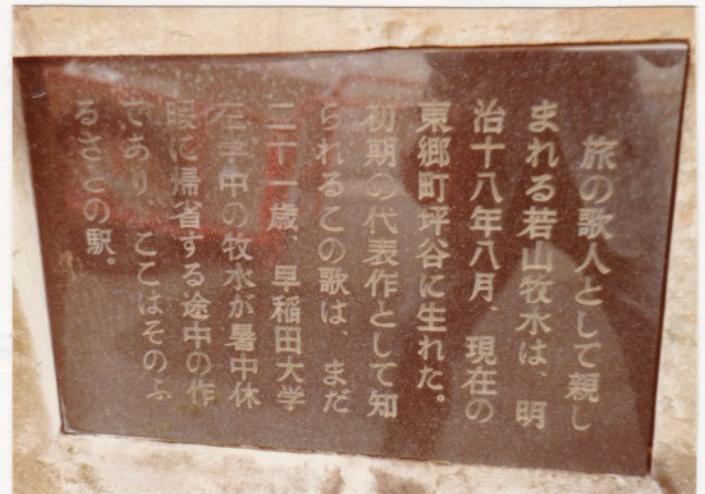
は て な む 國 ぞ

け ふ も 旅 ゆ く

牧 水



旅の歌人として親しまれる若山牧水は、明治十八年八月、現在の東郷町坪谷に生れた。初期の代表作として知られるこの歌は、まだ二十一歳、早稲田大学在学中の牧水が暑中休暇に帰省する途中の作であり、ここはそのふるさとの駅。



碑陰

昭和五十一年十一月二日建立

牧 水 顕 彰 会



樂心何
 こえさり行かば
 おーさの
 はてなむ國ぞ
 けしきもゆく
 ねこ

旅の歌人として親しまれる若山牧水は、明治十八年八月、現在の東郷町坪谷に生れた。初期の代表作として知られるこの歌は、まだ三十一歳、早稲田大学在学中の牧水が暑中休暇に帰省する途中の作であり、こゝはそのふるさとの驛。

若山牧水歌碑

所在地 宮崎県日向市日知屋六三 富島中学校 校門内

うつくしく清き思ひ出

碑陰

とめおかも

寄贈 昭和六年三月

田崎登保

願ひを持ちて

今をすくせよ

牧水



若山牧水歌碑

所在地 宮崎県日向市日知屋 8263 富島中学校 校門内

うつくしく清き思ひ出

とゞめおかむ

願ひを持ちて

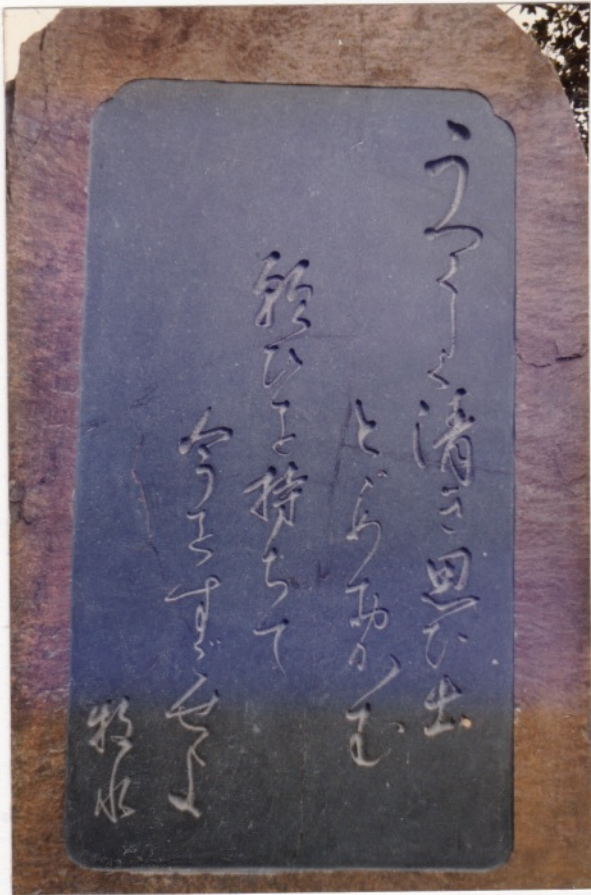
今をすごせよ

牧水

碑陰

寄贈 昭和六十年三月

田崎登保



日向市親にあつた木碑 ←

若山牧水歌碑

所在地 宮崎県日向市 米の山公園 頂上

日向の国

むらさきの山の

ひと山に

住む母恋し

秋晴の日や

牧水

碑陰

牧水生誕百年祭記念行事

日向市実行委員会建立

昭和五十年十月十五日

牧水詠 旅人書



若山牧水歌碑

所在地 宮崎県日向市 米の山公園 頂上

日 向 の 国

むら立つ山の

ひと山に

住む母恋し

秋晴の日や

牧水

碑陰

牧水生誕百年祭記念行事

日向市実行委員会建立

昭和六十年十月二十五日

牧水詠 旅人書





若山牧水歌碑

所在地 宮崎県日向市美々津 権現崎

美々津権現崎にて

海よかけれ水平線の颯みより

雲よ出て来て海わたれかし

牧水

左側面

昭和二十六年九月七日牧水忌

牧水先生歌碑建設委員会

世話人代表

藤本明達

高木九松

安藤吉広



若山牧水歌碑

所在地 宮崎県日向市美々津 権現崎

美々津権現崎にて

海よかげれ水平線の^{くろ}黝みより
雲よ出で来て海わたれかし

牧水

左側面

昭和三十八年九月十七日牧水忌

牧水先生歌碑建設委員会

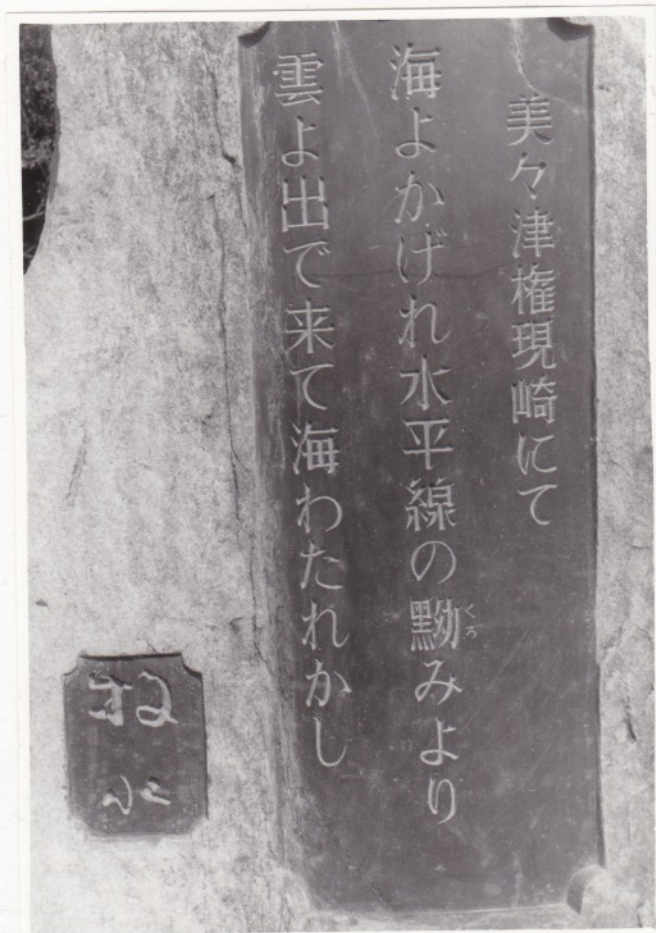
世話人代表

藤本明達

高木九松

安藤吉弘

草山井水標



若山牧水記念碑

所在地 宮崎県東臼杵郡東郷町坪谷 生家横

牧水生誕之地

碑陰

碑

文

牧水ハ本名繁明治十八年八月二十四日医師
若山立藏ノ嫡嗣トシテ此ノ地ニ生ル 祖父
健海ハ種痘普及ノ功勞者トシテ西洋医術傳
来史上特筆サルベキ先覺者 武蔵國所澤在
ノ人故アリテ天保七年葉月此處ニ居ヲ定ム
牧水ノ天賦ノ詩魂ハ熱シテ遂ニ父祖ノ業ヲ
ル医学ヲ放棄セシメ早稲田大学英文科ニ学
ビ 明治大正昭和三代歌壇ノ巨匠ニシテ幾
多不朽ノ名歌ヲ詠出ス則チ「海ノ聲」以下
十餘歌集及紀行文集等名著多数著述ノ偉業
ヲ遂グ 昭和三年九月十七日 沼津千本松
原ノ住居ニテ長逝ス
生来 旅ト酒ト寂ヲ 愛好シ自ラ三癖ト稱
セシガ 命迫マルヤ 静カニ酒ヲ含ミテ四十
四歳ノ生涯ヲ閉チタ

法名 枯松院仙譽牧水居士



若山牧水記念碑

所在地 宮崎県日向市東郷町坪谷 生家横

牧水生誕之地



碑陰

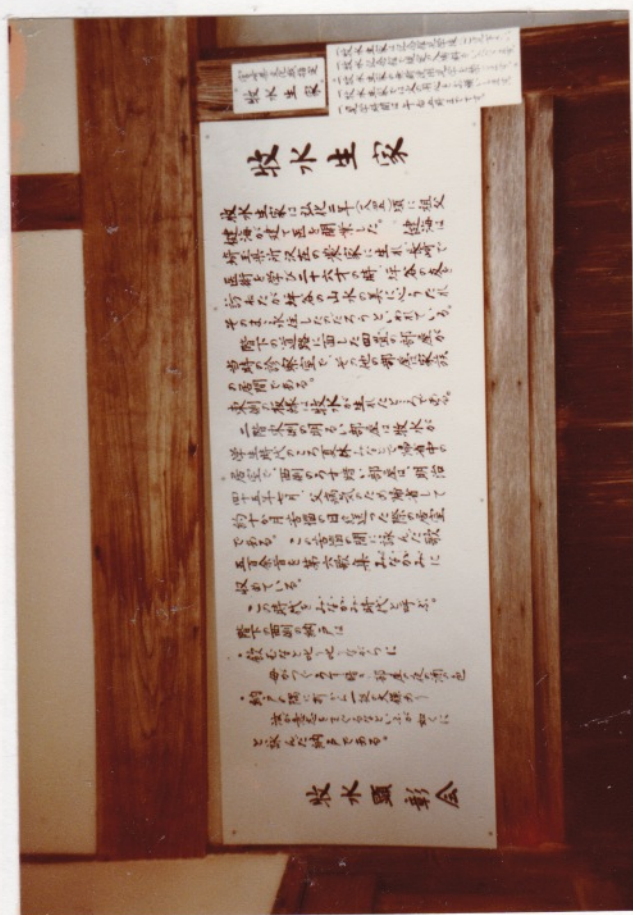
碑

文

牧水ハ本名繁明治十八年八月二十四日医師
若山立藏ノ嫡嗣トシテ此ノ地ニ生ル 祖父
健海ハ種痘普及ノ功勞者トシテ西洋医術傳
来史上特筆サルベキ先覺者 武藏國所澤在
ノ人故アリテ天保七年葉月此處ニ居ヲ定ム
牧水ノ天賦ノ詩魂ハ熱シテ遂ニ父祖ノ業タ
ル医学ヲ放棄セシメ早稲田大學英文科ニ學
ビ 明治大正昭和三代歌壇ノ巨匠ニシテ幾
多不朽ノ名歌ヲ詠出ス即チ「海ノ聲」以下
十餘歌集及紀行文集等名著多数著述ノ偉業
ヲ遂グ 昭和三年九月十七日 沼津千本松
原ノ住居ニテ長逝ス
生来 旅ト酒ト寂ヲ 愛好シ自ラ三癖ト稱
セシガ 命迫マルヤ静カニ酒ヲ含ミテ四十
四歳ノ生涯ヲ閉ヂタ

法名 古松院仙譽牧水居士







若山牧水歌碑

所在地 宮崎県東臼杵郡東郷町坪谷 生家近くの牧水橋 親柱

上つ瀬と
下つ瀬に居りて
をりをりに
呼び交しつ
父と釣りにき

牧水
旅人書

牧水橋の親柱(素面)
右側 牧水橋
左側 坪谷川

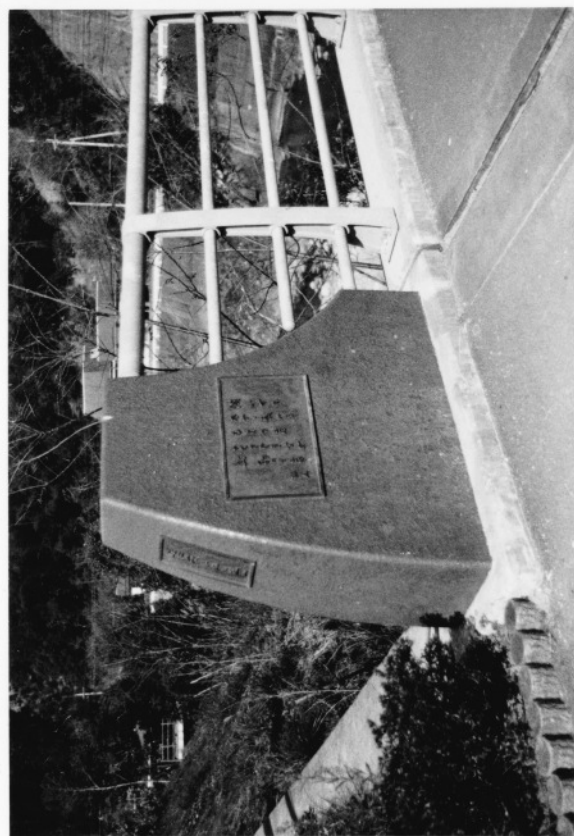
若山旅人歌碑

所在地 宮崎県東臼杵郡東郷町坪谷 生家近くの牧水橋 親柱

淵いでて
たかく乾ける
ひとつ岩
をさなき父が
鱒釣りし岩

旅人

牧水橋の親柱(素面)
昭和六年九月竣工



若山牧水歌碑

所在地 宮崎県日向市東郷町坪谷 生家近くの牧水橋 親柱

上つ瀬と
下つ瀬に居りて
をりをりに
呼び交しつ
父と釣りにき

牧水
旅人書

牧水橋の親柱（生家側）

右側 牧水橋
左側 坪谷川

若山旅人歌碑

所在地 宮崎県日向市東郷町坪谷 生家近くの牧水橋 親柱

淵いでて
たかく乾ける
ひとつ岩
をさなき父が
鮎釣りし岩
旅人



牧水橋の親柱（反対側）
昭和六十年九月竣工